

Pioneer

DEH-970

CD/USB/SD/チューナー・DSPメインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

安全のために必ずお守りください



警告

[使用方法]

運転中に操作をしない



運転者は運転中に本機の操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作を行うときは、必ず安全な場所に車を停車させてください。

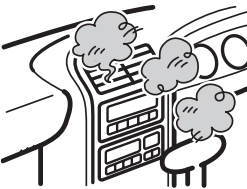
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、内部に異物が入った・水がかかった・煙が出る・変なにおいがするなど異常が起きた場合は、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズを使用してください。規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。

目次

安全のために必ずお守りください

- 絵表示について 2
- 安全上のご注意 3

はじめに

- 本書のみかた……………8
- 各部のなまえ……………9
- 本機の特徴……………12
- バッテリー上がりを防ぐために……………12
- 初めて本体を使用する際の設定……………13
- デモモードについて……………14
- リモコンの準備……………14
- フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた……………14
- 本機のリセットについて……………15
- DSP モードを切り換える……………16
- RCA入力モードを切り換える……………16
- サブウーファースの設定について……………17

ここだけ読めばすぐ使えます

- 基本的なオーディオの操作……………19
 - 電源 ON・OFF
 - ソース切り換え
 - 音量調節
- CDのふだんの操作……………20
 - CDを再生する
 - フォルダーを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
 - CDを取り出す
- ラジオのふだんの操作……………22
 - バンドを選ぶ
 - 放送局を選ぶ
- USBのふだんの操作……………23
 - USB機器の曲を再生する
 - フォルダーを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
- SDのふだんの操作……………24
 - SDカードの曲を再生する
 - フォルダーを選ぶ
 - ファイルを選ぶ
 - 早送り・早戻し

- iPodのふだんの操作……………25
 - iPodの曲を再生する
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
- BT Audioのふだんの操作……………26
 - Bluetooth対応機器を再生する
 - 早送り・早戻し
- よく使う機能をボタンで
すぐに操作する……………27

CDを聞く

- ファンクションメニューの
切り換えかた……………28
- 繰り返し再生する……………28
- 違う曲順で再生する……………29
- 再生を一時停止する……………29
- 音を補正して高音質化する……………30
- タイトルやアーティスト名を
表示させる……………30
- タイトルから曲やフォルダーをさがす…31

ラジオを聞く

- 放送局を1局ずつ登録する……………32
- 放送局名を見て聞きたい放送局を
呼び出す……………32
- 放送局名を表示する……………33
- ファンクションメニューの
切り換えかた……………33
- 複数の放送局を自動的に登録する……………34
- 放送局名を選ぶ……………34
- レバーの動作を設定する……………35

USB／SDを聞く

- ファンクションメニューの
切り換えかた……………36
- 再生中の曲にリンクした曲を再生する…37
- タイトルやアーティスト名を
表示させる……………37
- タイトルを見て聞きたい
フォルダーや曲をさがす……………37
- 聞きたい曲をさがす……………38

iPodを聞く

チャプターを選ぶ	39
聞きたい曲をさがす	39
リスト表示をアルファベットで 検索する	39
タイトルやアーティスト名を 表示させる	40
iPod で選曲して本機から再生する	40
ファンクションメニューの 切り換えかた	41
違う曲順で再生する	42
すべての曲をシャッフルしてから 再生する	43
オーディオブックの再生速度を 変更する	43

BT Audioを聞く

ファンクションメニューの 切り換えかた	44
BT Audioを再生する	44
BT Audioを停止する	44

Bluetooth機器との接続

本機とBluetooth機器の接続	45
Bluetooth接続メニューの 切り換えかた	45
接続するBluetooth機器を切り換える	45
登録済みのBluetooth機器を削除する	46
Bluetooth機器を登録する	46
特殊なBluetooth機器を接続する	47
自動接続を設定する	48
Bluetooth機器からの 検出状態を設定する	48
本機のパスコードを変更する	48
本機のBluetooth機器情報を確認する	49

携帯電話を使う

本機を使った携帯電話の 使用方法について	50
-------------------------	----

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

USB / SDを聞く

iPodを聞く

BT Audioを聞く

Bluetooth機器との接続

携帯電話を使う

音を調節する

初期設定

便利な機能

取り付けの準備

接続・取り付けと動作確認

その他 (付録)

目次

電話に出る・電話を切る	50
着信を拒否する	50
PHONEメニューの切り換えかた	51
履歴から電話をかける	51
電話帳を使う	52
電話機能を設定する	52

音を調節する

DSPについて	54
オーディオ調節のポイント	54
オーディオ調節メニューの 切り換えかた	55
左右チャンネル調整モードの 切り換えかた	57
リスニングポジションを選ぶ	57
前後左右の音量バランスを調節する	58
タイムアライメントを選ぶ	59
タイムアライメントを調節する	59
ネットワークを調節する前に	61
ネットワークを調節する	62
サブウーファーを使う	64
低い音を出力しないようにする	65
イメージに合った 演奏会場を再現する	67
オートイコライザーを ON / OFFする	67
イコライザーカーブを 大まかに補正する	67
イコライザーカーブを 細かく調節する	68
小音量時の音にメリハリをつける	69
騒音に合わせて音量を変える	69
各ソースの音量の違いをそろえる	70
オートタイムアライメント& イコライジングを行う前に	70
オートタイムアライメント& イコライジングを行う	72

初期設定

初期設定メニューの切り換えかた	73
日付を合わせる	74
時計を合わせる	74
本機の使用時間を知らせる	74
曲のさがしかたを設定する	75
フロントパネルの外し忘れを警告する	75
外部機器 (AUX) の音声を 聞けるようにする	76
夜間のディスプレイの明るさを 切り換える	76
ディスプレイのコントラストを 調節する	77
音の歪みを補正する	77
オーディオ設定をリセットする	77
ミュート/アッテネートを切り換える	78
内蔵パワーアンプをON / OFFする	78
フィーチャーデモをON / OFFする	79
スクロールの設定を切り換える	79
BT AudioソースをONにする	80
登録したBluetooth機器の データを消去する	80
Bluetoothソフトウェアの バージョンを確認する	81
Bluetoothのソフトウェアを更新する	81

便利な機能

瞬時に音を消す	82
ボタンの色とディスプレイの 表示を消す	82
交通情報を受信する	82
エンタテインメントメニューの 切り換えかた	83
背景画面を設定する	83
時計表示を切り換える	84
イルミネーションメニューの 切り換えかた	84
ボタンの色を選ぶ	85
ディスプレイの色を選ぶ	86

ボタンとディスプレイの色を選ぶ	86
ボタンとディスプレイの 色を調節する	86

取り付けの準備

接続・取り付け部品を確認する	88
取り付けの前に知ってほしいこと	88
接続の前に知ってほしいこと	89

接続・取り付けと動作確認

電源コードの接続	90
スピーカーリード線の接続 ①	92
スピーカーリード線の接続 ②	94
スピーカーリード線の接続 ③	96
スピーカーリード線の接続 ④	98
本機とiPod/USB機器の接続	100
本機とオーディオ機器の接続	101
本体を取り付ける	102
動作を確認する	103
ハンズフリー用マイクの取り付け	103

その他（付録）

CDの正しい使いかた	105
WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルについて	106
ディスク内のフォルダーについて	108
USB機器について	109
SDカードについて	109
USB 機器 / SDカード内の フォルダーについて	110
iPodについて	110
電波に関するご注意	111
故障かな？と思ったら	112
こんなメッセージが表示されたら	114
保証書とアフターサービス	116
商標・著作権など	116
おもな仕様	118

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

USB / SDを聞く

iPodを聞く

BT Audioを聞く

Bluetooth機器との接続

携帯電話を使う

音を調節する

初期設定

便利な機能

取り付けの準備

接続・取り付けと動作確認

その他（付録）

本書のみかた

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。CD やラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。

基本操作以外の便利な機能については、「CD を聞く」や「ラジオを聞く」、「音を調節する」など、それぞれの項目をお読みください。

マークについて



注意マーク

- 安全のために必ず守っていただきたいこと、本機を操作するときの注意事項、性能を維持するための注意事項について説明しています。



用語説明マーク

- 操作や機能などの用語について説明しています。



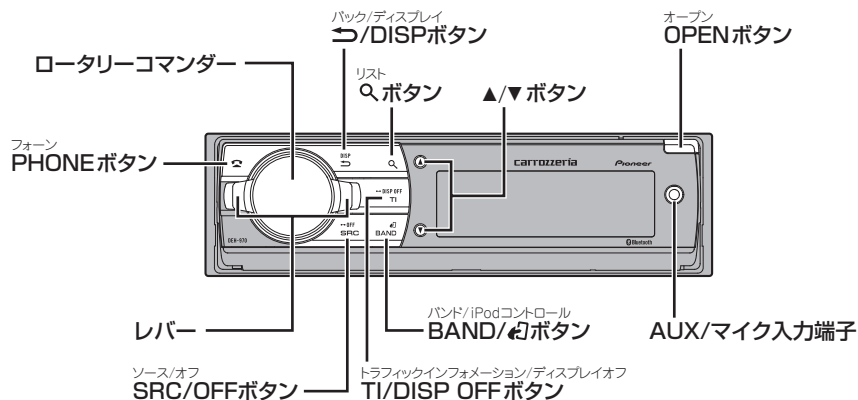
メモマーク

- 操作上のヒント、便利な使いかたなどについて説明しています。

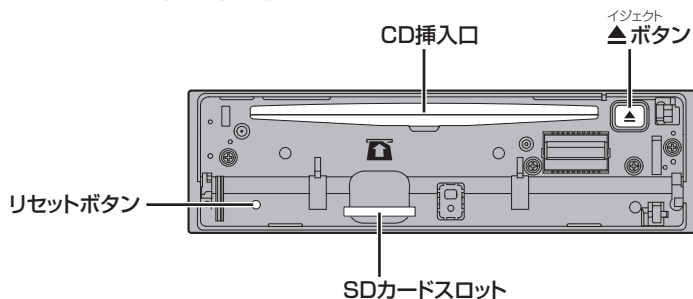
各部のなまえ

本体

フロントパネル取り付け時



フロントパネル取り外し時



ロータリーコマンダーとは

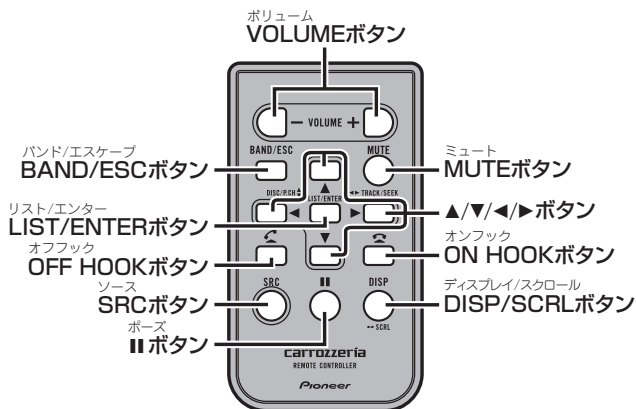
- 「回す」・「中心を押す」の2つの操作を行うことで、本機のままさまざまな機能を使うことができます。

レバーを使った操作について

- ロータリーコマンダーと同様に、レバーを使ってセットアップ/ファンクション/オーディオメニュー、初期設定、リストの項目を選択することができます。

リモコン

本体と同じなまえのボタンは、本体のボタンと同じ動きをします。



メモ

- ◀/▶ ボタンは CD、USB/iPod、SD ソース時に、レバーの「左、右に回す」と同じ動きをします。ソースについては、(➡「基本的なオーディオの操作」19 ページ)。
- ▲/▼ ボタンでセットアップ/ファンクション/オーディオメニュー、初期設定、リストを選択できます。▶ ボタンで項目を決定、◀ ボタンで前の画面に戻ります。
- 他のパイオニア製メインユニットとのリモコンの併用ができない場合があります。

ディスプレイ

ソース表示

ソースインジケータ
選択されたソース名を表示します。

ソース情報表示部1
バンド、ステレオインジケータ、プリセットチャンネル番号（ラジオ）
トラック番号、フォルダ番号を表示します。

ソースアイコン
選択されたソースをアイコン
で表示します。


ソース情報表示部2
周波数（ラジオ）
再生経過時間（オーディオCD）
ビットレート、再生経過時間（WMA/MP3/AAC）
サンプリング周波数、再生経過時間（WAV）
再生経過時間、再生中の曲番号やリスト収録曲数（iPod）
各種設定内容（ファンクション・オーディオ・イルミネーション・エンタテインメント・初期設定）
などを表示します。







ガイド表示（ファンクション・オーディオ・イルミネーション・エンタテインメント・初期設定）



ガイド表示

現在、有効な操作を示すロータリーコマンドとレバーが点灯します（右図参照）。

 が表示されるときは、ロータリーコマンドとレバーの操作結果が異なります。表示されていないときは、同じ操作結果になります。

	ロータリー 操作	押す	長く押す	レバー 操作
	○	○	○	○
	○	○	×	○
	○	×	×	○
	×	○	○	×
	×	○	×	×
	×	×	×	×

○：有効 ×：無効

リスト表示



反転表示

再生中の項目（トラックやフォルダ）、受信中の項目（放送局や周波数の表示）は、反転表示されます。

ハイライト表示

選んでいる項目は、ハイライト表示されます。

本機の特徴

多様なメディアと 圧縮フォーマットに対応

本機は、音楽 CD の他、次のメディアに収録した圧縮オーディオファイルを再生できます。

- CD-R / CD-RW
- USB ポータブルオーディオプレーヤー
- USB メモリー
- SD カード、SDHC カード
- mini SD カード、micro SD カード (アダプター使用時)

対応する圧縮フォーマットは、次のとおりです。

- WMA
- MP3
- AAC
- WAV

対応とご注意について詳しくは、(➡「WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルについて」106 ページ)。

また、iPod の接続にも対応しています。

さらに、圧縮フォーマットの楽曲の音を補正する機能として、「アドバンスド・サウンドレトリバー」を搭載しています。この機能により、CD に迫る音質での再生が可能になります。

USB 機器の接続

本機は、USB 機器を 2 つ接続できます。対応する USB 機器や接続時のご注意については (➡「USB 機器について」109 ページ、「おもな仕様」118 ページ)。

SD カードの使用

SD カード使用時のご注意などについては (➡「SD カードについて」109 ページ、「おもな仕様」118 ページ)。

メモ

- 本書では便宜上、SD カード、SDHC カード、mini SD カード、および micro SD カードを SD カードと表記しています。

iPod の接続

本機は、iPod を接続して操作できます。本機側からの操作はもちろん、「操作設定」によって iPod 側からの操作が可能です。スムーズな選曲が実現できます。対応する iPod や接続時のご注意については (➡「iPod について」110 ページ)。

メモ

- 本書では便宜上、iPod、iPhone を iPod と表記しています。

Bluetooth 機器の接続

本機は、Bluetooth 対応機器との接続が可能です。Bluetooth 機器を接続することで、BT Audio の再生や、ハンズフリー通話を行うことができます。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。

ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、カレンダー設定、時計などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリーは (➡「放送局を 1 局ずつ登録する」32 ページ)、カレンダー設定は (➡「日付を合わせる」74 ページ)、時計調整は (➡「時計を合わせる」74 ページ) を参照して、再設定してください。

初めて本体を使用する際の設定

本体の取り付け後、初めて車のイグニッションスイッチをONにしたときに、セットアップメニューが自動で起動します。

1 本体を取り付けた後に、車のエンジンをかける

SET UP が表示されます。

2 ローターリーコマンドーを回して、YESを選ぶ



メモ

- セットアップメニューを実行しない場合は、NO を選びます。



ご注意

- NO を選ぶと、今後セットアップメニューでの設定はできません。その場合は、初期設定メニューで設定してください（➡「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ）。

3 ローターリーコマンドーを押して、セットアップメニューを表示する

4 ローターリーコマンドーを操作して、各メニューを設定する

以下の手順に従って、各メニューの設定を行ってください。

カレンダー設定

- ①ロータリーコマンドーを回して、年を合わせる
- ②ロータリーコマンドーを押して、月に切り換える
- ③ロータリーコマンドーを回して、月を合わせる
- ④ロータリーコマンドーを押して、日に切り換える
- ⑤ロータリーコマンドーを回して、日を合わせる
- ⑥ロータリーコマンドーを押して、時計調整に切り換える

時計調整

- ①ロータリーコマンドーを回して、時を合わせる
- ②ロータリーコマンドーを押して、分に切り換える
- ③ロータリーコマンドーを回して、分を合わせる
- ④ロータリーコマンドーを押して、コントラスト調整に切り換える

コントラスト調整

- ①ロータリーコマンドーを回して、コントラストを調節する
- ②ロータリーコマンドーを押して、デモ設定に切り換える

デモ設定

- ①ロータリーコマンドーを回して、デモ設定を選ぶ
OFF (オフ)
↓
ON (オン)
- ②ロータリーコマンドーを押して、セットアップ確認画面に切り換える

QUIT が表示されます。



メモ

- 前のメニューに戻るには、DISP ボタンを押します。

5 ローターリーコマンドーを回して、YESを選ぶ



メモ

- 設定画面に戻る場合は、NO を選びます。

6 ローターリーコマンドーを押して、セットアップメニューを終了する



ご注意

- 約 30 秒間何も操作しないと、セットアップメニューは自動的に解除され、今後セットアップメニューでの設定はできません。その場合は、初期設定メニューで設定してください（➡「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ）。

デモモードについて

本機には、フィーチャーデモの機能があります。



フィーチャーデモとは

●フィーチャーデモは、本機が電源 OFF のときや、約 30 秒間何も操作しないときに、各ソースや本機の機能（ファンクションやエンタテインメントなど）の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに **DISP** ボタンを長く押ししてください。もう一度長く押しすと、デモが始まります。

また、初期設定でもフィーチャーデモの切り換えが可能です（⇒「フィーチャーデモを ON/OFF する」79 ページ）。

車のエンジンを止めた状態でフィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

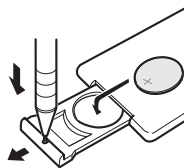


ご注意

- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源を OFF にしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。
- 運転中のデモモードは、前方不注意などの原因となる場合があります。運転中はデモモードを解除するか、設定を OFF にしてください。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池（CR2025）の+側を上にしてセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。



リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 本機に付属の電池は、日光や火気など過度の熱が当たる場所に置かないでください。

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。



ご注意

- 初めてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただけます。

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外す（デタッチ）ことができます。



フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。

- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。
- フロントパネルのデタッチを行うときは、フロントパネルからAUXケーブルおよび音響特性測定用マイクを取り外してください。取り外さなかった場合は、機器や車両の備品が破損するおそれがあります。
- 安全のため、停車してからフロントパネルを外してください。

本機のリセットについて

オーディオ設定以外の調整内容（時計やラジオのプリセットなど）を工場出荷時の状態に戻すことができます。

次のようなときに、リセットボタンを押してください。

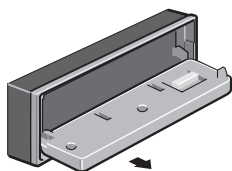
- 接続が終わったあと。
- 本機が正しく動作しないとき。
- ディスプレイが正しく表示されないとき。
- DSPモードを切り換えたとき。

フロントパネルの取り外しかた

1 OPENボタンを押して、フロントパネルを開く

2 フロントパネルの左側を持ちながら、手前に引く

フロントパネルが外れます。

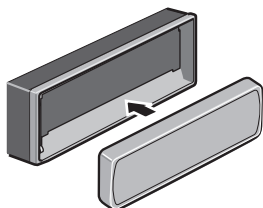


3 フロントパネルを保管する

取り外したフロントパネルは、ケースなどに入れて保管してください。

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを本体に“カチッ”と音がするまで押し込む

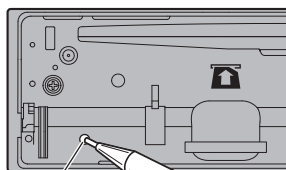


1 フロントパネルを取り外す

(→「フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた」14ページ)

2 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



リセットボタン

3 フロントパネルを取り付ける

(→「フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた」14ページ)

DSP モードを切り換える

本機の DSP には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の 2 つの動作モードがあります。お好みにあわせてモードを切り換えてください。

工場出荷時は「スタンダードモード(STD)」です。

モードの内容

STD :

一般的なフロント・リアの 4 スピーカーシステム、またはフロント・リア・サブウーファアの 6 スピーカーシステムを構築する場合。

NW :

3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築する場合。

RCA 入力モードを切り換える

本機と純正オーディオまたは市販オーディオ機器を接続して、純正/市販オーディオの音声を、本機に接続したスピーカーから出力させることができます。

接続の方法により、モードを切り換えてください。接続方法については、(➡「本機とオーディオ機器の接続」101 ページ)。

モードの内容

L (Low) :

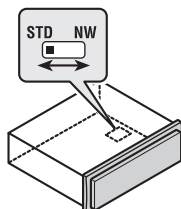
接続する機器の RCA 出力から入力する場合。

H (High) :

接続する機器のスピーカー出力から入力する場合。

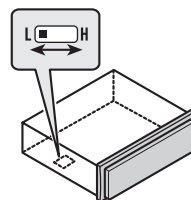
1 DSP モードを切り換える

ペン先などで好みのモードに切り換える



1 RCA 入力モードを切り換える

ペン先などで好みのモードに切り換える



2 本機をリセットする

(➡「本機のリセットについて」15 ページ)

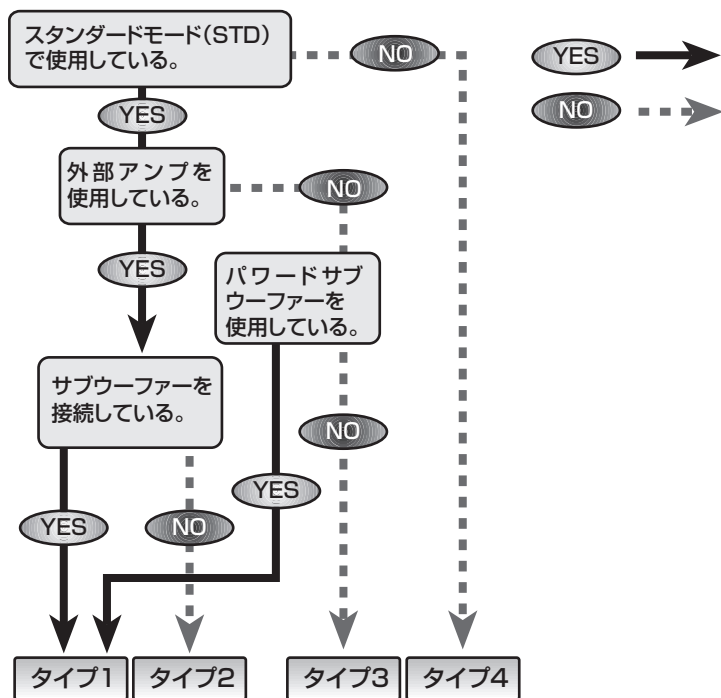
リセットボタンを押すことで、設定した DSP モードが有効になります。

メモ

- DSP モードを切り換えると、オーディオ設定の内容は工場出荷時の状態に戻ります。調整された内容は、メモしておくことをおすすめします。

サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、サブウーファーを正しく設定してください。



次のページに続く

タイプ 1

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

1. サブウーファーを ON にする (⇒「サブウーファーを使う」64 ページ)
2. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「リスニングポジションを選ぶ」57 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」72 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

タイプ 2

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

1. サブウーファーを OFF にする (⇒「サブウーファーを使う」64 ページ)
2. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「リスニングポジションを選ぶ」57 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」72 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ 3

1. サブウーファーを OFF にする (⇒「サブウーファーを使う」64 ページ)
2. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「リスニングポジションを選ぶ」57 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」72 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ 4

1. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「リスニングポジションを選ぶ」57 ページ)
2. Auto TA & EQ を行う (⇒「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」72 ページ)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

基本的なオーディオの操作

電源 ON・OFF ソース切り換え 音量調節

1 SRC/OFF ボタンを押して、電源をONにする

本機の電源が ON になります。

2 SRC/OFF ボタンを押して、ソースを切り換える

押すごとに次の順序で切り換わります。



ソースとは

- SRC/OFF ボタンを押すと切り換わる、CD やラジオなどの音源のことです。

3 ロータリーコマンドを回す

音量が変わります。

大きくするとき：右に回す

小さくするとき：左に回す

約 4 秒間、音量が表示されます。

4 SRC/OFF ボタンを長く押し、電源をOFFにする

本機の電源が OFF になります。

工場出荷時の状態では、フィーチャーデモが表示されます。(⇒「デモモードについて」14 ページ)

メモ

- 音量の調節範囲は 0 ～ 62 です。
- ディスクを挿入口に差し込んだときも、電源が ON になります。
- 次の場合、該当のソースには切り換わりません。
 - ・対応する機器を接続していない
 - ・CD/SD をセットしていない
 - ・AUX1/2 (外部機器 1/2) を OFF にしている (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」76 ページ)
 - ・BT Audio を OFF にしている (⇒「BT Audio ソースを ON にする」80 ページ)
- USB1 ソースでは USB1 用端子に接続した USB または iPod を、USB2 ソースでは USB2 用端子に接続した USB または iPod を再生します (⇒「本機と iPod/USB 機器の接続」100 ページ)。
- 工場出荷時は、AUX1 が ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」76 ページ)。
- 本機のアンテナコントロール線の接続状態によっては、ラジオが受信できない場合があります (⇒90 ページ)。また、オートアンテナ車のアンテナを下げる場合は、電源を OFF にしてください。
- CD をセットしたまま電源を OFF にすることもできます。
- 電源が OFF のときでも、▲ ボタンを押して CD を取り出すことができます。
- 時計を表示させている場合、電源を OFF にしてもカレンダー、時計は表示されます。

CD のふだんの操作

CDを再生する フォルダーを選ぶ 曲を選ぶ
早送り・早戻し CDを取り出す

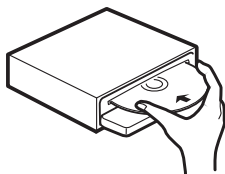
画面例



1 OPEN ボタンを押す

フロントパネルが開きます。

2 CD を CD 挿入口に差し込む



3 フロントパネルを閉じる

↓
CDの再生が始まります。

すでにCDが挿入されている場合は、SRC/OFF ボタンを押してCDソースに切り換えます。

4 ▲ ボタンまたは▼ ボタンを押して、フォルダーを選ぶ

圧縮オーディオ再生時に、フォルダーが選べます。

次のフォルダーを選ぶ： ▲ ボタンを押す
前のフォルダーを選ぶ： ▼ ボタンを押す

5 レバーを回して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ： 右に回す
前の曲を選ぶ： 左に回す

6 レバーを回して、早送り／早戻しする

早送り： 右に 0.5 秒以上回して離す
早戻し： 左に 0.5 秒以上回して離す

7 SRC/OFFボタンを押してソースを切り換えるか、SRC/OFFボタンを長く押して、本機の電源をOFFにする

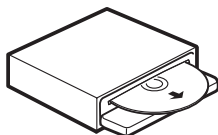
再生が終わります。

8 OPEN ボタンを押す

フロントパネルが開きます。

9 ▲ボタンを押して、CDを取り出す

CDが出てきます。



10 フロントパネルを閉じる



📌 ご注意

- CD はレーベル面を上にして差し込みます。
- CD 挿入口には、CD 以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- 「CD TEXT」や「CD-ROM」など、文字情報が記録されたディスクでは、ディスクタイトル、曲名などを表示できます（➡「タイトルやアーティスト名を表示させる」30 ページ）。
- 本機は、挿入されたディスクからファイル形式などの情報を読み取ります。この間、画面には「FORMAT READ」と表示されます。
- 8 cm ディスクには対応していません。また、アダプターを装着した 8 cm ディスクも絶対に使用しないでください。
- 圧縮オーディオファイルを早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。

- VBR(可変ビットレート)で録音されたファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- CD/CD-R/CD-RWを使用するときのご注意については、(→「CDの正しい使いかた」105ページ)。



知っていると便利

- 圧縮オーディオファイル再生時は、BAND/ ボタンを長く押し、フォルダー 01 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- CDを挿入したまま、本機の電源をOFFにしたり他のソースに切り換えることができます。
- 圧縮オーディオファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、切り換えて再生できます。切り換えるときは、BAND/ ボタンを押します。再生は、それぞれ先頭の曲から始まります。

ラジオのふだんの操作

バンドを選ぶ 放送局を選ぶ

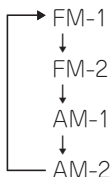
画面例



1 SRC/OFFボタンを押して、Tunerソースに切り換える

2 BAND/↻ボタンを押して、バンドを選ぶ

押すごとに、次の順序でバンドが切り換わります。



3 ▲ボタンまたは▼ボタンを押す

プリセット番号順に放送局を受信します。

次のプリセットチャンネルを選ぶ：

▲ボタンを押す

前のプリセットチャンネルを選ぶ：

▼ボタンを押す

知っている则便利

- レバーを左右に回すことでプリセットチャンネルを選ぶこともできます。
- 放送局を手動で選局する場合は、レバーの動作設定をマニュアル シーク（手動選局）に設定します。（⇒「レバーの動作を設定する」35ページ）

マニュアル シークに設定後は、以下のようにレバーを操作して手動選局を行います。

右または左に回す：

周波数を順番に送る

右または左に約 0.5秒以上回して離す：

受信可能な放送局が見つかるまで自動で周波数を送る

- レバーを左または右に回し続けている間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。

4 SRC/OFFボタンを押してソースを切り換えるか、SRC/OFFボタンを長く押して、本機の電源をOFFにする

ラジオの受信が終わります。

知っている则便利

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます（⇒「放送局を1局ずつ登録する」32ページ、「複数の放送局を自動的に登録する」34ページ）。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

USB のふだんの操作

USB 機器の曲を再生する フォルダを選ぶ
曲を選ぶ 早送り・早戻し

画面例



1 USB 機器を接続する

接続方法については、(⇒「本機と iPod/USB 機器の接続」100 ページ)。

2 SRC/OFF ボタンを押して、USB 1/2 ソースに切り換える

再生が始まります。

3 ▲ ボタンまたは ▼ ボタンを押して、フォルダを選ぶ

次のフォルダを選ぶ： ▲ ボタンを押す
前のフォルダを選ぶ： ▼ ボタンを押す

4 レバーを回して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ： 右に回す
前の曲を選ぶ： 左に回す

5 レバーを回して、早送り／早戻しする

早送り： 右に回し続ける
早戻し： 左に回し続ける

6 SRC/OFF ボタンを押して ソースを切り換えるか、SRC/OFF ボタンを長く押して、本機の電源を OFF にする

再生が終わります。



ご注意

- 対応する USB 機器をご使用ください。ただし、対応する USB 機器でも正しく動作しない場合があります。(⇒「USB 機器について」109 ページ)。
- USB 機器を使用するときのご注意については、(⇒「USB 機器について」109 ページ)。
- USB 機器が本機に接続されていない場合は、「NO DEVICE」と表示されます。この状態のときは、ロータリーコマンドを押してメインメニューを表示することはできません。
- 早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。



メモ

- USB 機器を接続したまま、本機の電源を OFF にしたり他のソースに切り換えることができません。
- USB 機器は、いつでも取り外すことができます。
- USB 機器を取り外すことで、再生を終了することもできます。
- BAND/🔊 ボタンを長く押しと、フォルダー 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- USB 機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチが ACC または ON になっているときに USB 機器のバッテリーが充電されます。
- 本機は、接続された USB 機器から情報を読み取ります。この間、画面には、「FORMAT READ」と表示されます。USB 機器の情報量によっては、再生までに時間がかかる場合があります。
- 接続する USB 機器が複数のマストレージクラスで構成されている場合、本機では最大 32 個まで認識可能です。認識したマストレージクラスについては、BAND/🔊 ボタンを押して切り換えることができます。

SD のふだんの操作

SDカードの曲を再生する フォルダーを選ぶ
ファイルを選ぶ 早送り・早戻し

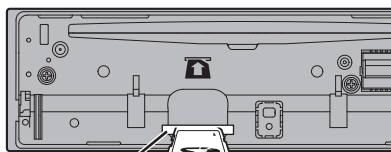
画面例



1 フロントパネルを取り外す

(⇒「フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた」14 ページ)

2 SDカードをSDカードスロット に“カチッ”と音がするまで差し 込む



SDカードスロット ラベル面を上にする

3 フロントパネルを取り付ける

(⇒「フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた」14 ページ)

4 SRC/OFFボタンを押して、 SDソースに切り換える

再生が始まります。

5 ▲ ボタンまたは▼ ボタンを 押して、フォルダーを選ぶ

次のフォルダーを選ぶ： ▲ ボタンを押す
前のフォルダーを選ぶ： ▼ ボタンを押す

6 レバーを回して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ： 右に回す
前の曲を選ぶ： 左に回す

7 レバーを回して、早送り／早 戻しする

早送り：右に回し続ける
早戻し：左に回し続ける

8 SRC/OFFボタンを押して ソースを切り換えるか、SRC/ OFFボタンを長く押して、本機 の電源をOFFにする

再生が終わります。

9 フロントパネルを取り外す

(⇒「フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた」14 ページ)

10 SD カードを取り出す

“カチッ”と音がするまで SD カードを
押し込んで離すと、SD カードが押し
出されます。

📌 ご注意

- SD カードは中央部をゆっくりと押して、まっ
すく取り出してください。
- 取り出した SD カードは、専用ケースに入れ
るなどして、保管してください。また、誤っ
てお子様が飲み込むなどのことが無いよう
に、保管場所にもご配慮ください。

11 フロントパネルを取り付ける

(⇒「フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた」14 ページ)

📌 ご注意

- 対応する SD カードをご使用ください。ただ
し、対応する SD カードでも正しく動作しな
い場合があります (⇒「SD カードについて」
109 ページ)。
- SD カードを使用するときのご注意につい
ては、(⇒「SD カードについて」109 ページ)。
- 早送り／早戻ししているときには、音声は出
力されません。

✍️ メモ

- BAND/🔍 ボタンを長く押すと、フォルダー 01
(ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー 01
(ROOT)にファイルがない場合は、次のフォ
ルダーから再生が始まります。

iPod のふだんの操作

iPod の曲を再生する 曲を選ぶ 早送り・早戻し

iPod Dock コネクター (USB2.0 ケーブル用) を使用して iPod を本機に接続して操作できます。

画面例



1 iPod を接続する

接続方法については、(➡「本機と iPod/USB 機器の接続」100 ページ)。

2 SRC/OFF ボタンを押して、USB1/2 ソースに切り換える

再生が始まります。

3 ▲ ボタンまたは ▼ ボタンを押して、アルバムを選ぶ

次のアルバムを選ぶ： ▲ ボタンを押す
前のアルバムを選ぶ： ▼ ボタンを押す

4 レバーを回して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ： 右に回す
前の曲を選ぶ： 左に回す

5 レバーを回して、早送り／早戻しする

早送り： 右に回し続ける
早戻し： 左に回し続ける

6 SRC/OFF ボタンを押してソースを切り換えるか、SRC/OFF ボタンを長く押して、本機の電源を OFF にする

再生が終わります。

📌 ご注意

- iPod に同じ名前のアルバムが複数ある場合、▲ ボタンまたは ▼ ボタンを押してアルバムを選択できないことがあります。ブラウズモード (➡「聞きたい曲をさがす」39 ページ) で聞きたいアルバムを選択してください。
- iPhone/iPod touch 以外では、再生範囲が 1 曲リピートのときは、レバーを回して曲を選ぶことはできません。
- iPod には iPod 用 USB 変換ケーブルのみを接続してください。iPod 用 USB 変換ケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- 本機に接続する前に、iPod からヘッドホンを外してください。
- iPod を使用するときのご注意や iPod の設定については (➡「iPod について」110 ページ)。

✍️ メモ

- iPod を接続したまま、本機の電源を OFF にしたり他のソースに切り換えることができます。
- iPod は、いつでも取り外すことができます。
- 再生しているオーディオブックや Podcast にチャプターがある場合、レバーを回して、チャプターが選べます。
 - ・ 次のチャプターを選ぶ： 右に回す
 - ・ 前のチャプターを選ぶ： 左に回す
- エンジンスイッチが ACC または ON になっている場合、iPod のバッテリーが充電されます。
- 「操作設定」を「AUDIO」に設定した場合、iPod を本機に接続中は、iPod の操作で電源を ON/OFF することができません (➡「iPod で選曲して本機から再生する」40 ページ)。
- エンジンスイッチを OFF にして約 2 分後に、本機に接続されている iPod の電源も OFF になります。

BT Audio のふだんの 操作

Bluetooth 対応機器を再生する 早送り・早戻し

Bluetooth 対応機器を本機のソースとして使用できます。

画面例



メモ

- Bluetooth 対応機器を本機の BT Audio ソースとして初めて使用する場合、あらかじめ Bluetooth 対応機器を本機に登録しておく必要があります (→ 「Bluetooth 機器を登録する」 46 ページ)。
- BT Audio 設定を OFF にしている場合は、ON にしてください (→ 「BT Audio ソースを ON にする」 80 ページ)。

1 SRC/OFFボタンを押して、 BT Audioソースに切り換える

2 レバーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する

前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける

早戻し：左に操作し続ける

3 SRC/OFFボタンを押して ソースを切り換えるか、 SRC/OFFボタンを長く押し て、本機の電源をOFFにする

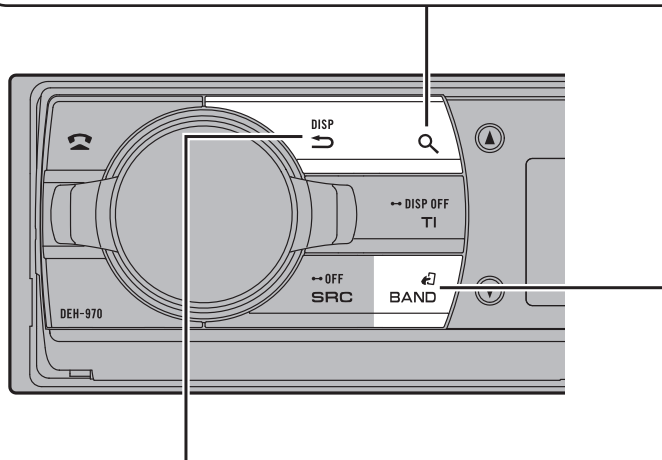
再生が終わります。

よく使う機能をボタンですぐに操作する

🔍 ボタン

押すと、ソースごとに異なるリストが表示されます。

- CD ➡ 「タイトルから曲やフォルダーをさがす」31 ページ
- ラジオ ➡ 「放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す」32 ページ
- USB/SD ➡ 「タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす」37 ページ
- iPod ➡ 「聞きたい曲をさがす」39 ページ



⏪/DISP ボタン

メニュー操作中などは、ひとつ前の画面に戻ることができます。

ふだんの再生画面のときは、押すたびに、ディスプレイの表示を切り換えることができます。

長く押すと、フィーチャーデモを ON/OFF できます (➡ 「デモモードについて」14 ページ)。



メモ

- ディスプレイの表示を変えられない場合もあります。

BAND/📻 ボタン

メニューや曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧 (トラック/ファイル/フォルダーリスト) が表示されているときに押すと、ふだんの再生画面に戻ります。

Tuner ソースのときに押すと、バンドが切り換わります (➡ 「ラジオのふだんの操作」22 ページ)。

USB1/2 (iPod) ソースのときに押すと、「コントロールモード」の設定が切り換わります (➡ 「iPod で選曲して本機から再生する」40 ページ)。

BT Audio ソースのときに押すと、再生が始まります (➡ 「BT Audio を再生する」44 ページ)。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドを回してFUNCTIONを選び、ロータリーコマンドを押す

ファンクションメニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。

- 再生範囲切換
(⇒「繰り返し再生する」このページ)
- ↓
- ランダムプレイ設定
(⇒「違う曲順で再生する」29 ページ)
- ↓
- ポーズ設定
(⇒「再生を一時停止する」29 ページ)
- ↓
- サウンドレトリバー設定
(⇒「音を補正して高音質化する」30 ページ)

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/◀ ボタンを押します。
- ひとつ前の画面に戻するには、▶/DISP ボタンを押します。

繰り返し再生する

再生範囲切換

曲を繰り返し(リピート)再生できます。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲は、ソースやディスクによって異なります。

1 ロータリーコマンドを操作して、再生範囲切換にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」このページ)

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次のように切り換わります。

■ CD を再生しているとき

Disc repeat (ディスクリピート)



Track repeat (トラックリピート)

■ WMA / MP3 / AAC / WAV を再生しているとき

→ Disc repeat (ディスクリピート)



Track repeat (トラックリピート)



Folder repeat (フォルダーリピート)

Disc repeat :

いま聞いているディスクを繰り返し再生します。

Track repeat :

いま聞いている曲を繰り返し再生します。

Folder repeat :

いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

3 BAND/▶ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- 選んだ再生範囲は、「ランダムプレイ設定」の再生範囲に影響します。
- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は、再生しません。

違う曲順で再生する

ランダムプレイ設定

曲を順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選ぶ

ランダムプレイは、再生範囲切替で選んだ範囲で行われます。

(⇒「繰り返し再生する」28 ページ)

2 ロータリーコマンドーを操作して、ランダムプレイ設定にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」28 ページ)

3 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON
↓
OFF

4 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定を ON にすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
CD：ディスクリピート
圧縮オーディオファイル：フォルダーリピート
- ランダムプレイ中に曲を変更する場合は、レバーを右に回して切り換えてください。レバーを左に回すと、再生中の曲の先頭に戻ります。

再生を一時停止する

ポーズ設定

曲の再生を一時停止できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、ポーズ設定にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」28 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON（一時停止）
↓
OFF（再開）

3 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- リモコンの ⏸ ボタンでも、同様の操作ができます。

音を補正して高音質化する

サウンドレトリバー設定

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。

アドバンスド・サウンドレトリバーとは

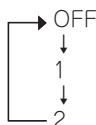
- 圧縮音声は圧縮処理される際に、人が感じ取りにくい部分の音声は削除されてしまいます。アドバンスド・サウンドレトリバー機能では、削除された部分の音声を補うことによって、音の密度感や抑揚感を向上させて再生します。

1 ロータリーコマンドーを操作して、サウンドレトリバー設定にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」28ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



メモ

- 1は低圧縮率の音声、2は高圧縮率の音声に適しています。

3 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

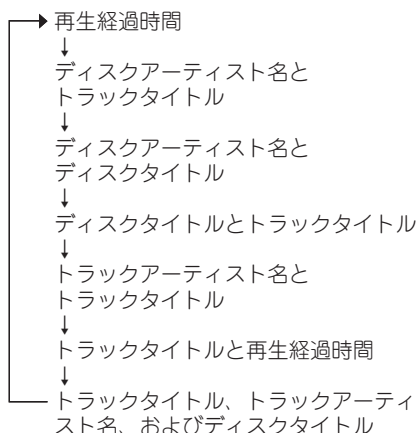
タイトルやアーティスト名を表示させる

「CD-TEXT」や「CD-ROM」など、文字情報が記録されたディスクでは、トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示させることができます。

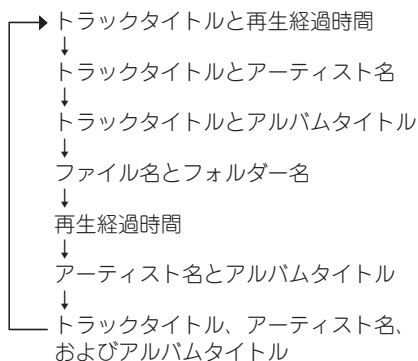
1 ➡/DISP ボタンを押す

➡/DISP ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。

■ CD TEXT を再生しているとき



■ WMA / MP3 / AAC / WAV を再生しているとき



 メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- WMP11を使用してWAVファイルをエンコードしたときに、WAVファイルのファイル名などを表示させることができます。
- 市販されている音楽CD (CD-DA) の場合、タイトルは表示されません。
- MP3ファイルやAACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生経過時間以外の情報は、表示しきれないタイトル名などを自動的にスクロールして表示します。また、連続スクロール設定をONにしておくと、スクロール表示が継続して行われます (→「スクロールの設定を切り換える」79ページ)。

タイトルから曲やフォルダーをさがす

音楽用CD (CD-TEXT) や圧縮オーディオの再生中に、曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧 (トラック／ファイル／フォルダーリスト) を見ながら、聞きたい曲、ファイル、フォルダーを選べます。

1 Qボタンを押して、トラック／ファイル／フォルダーリストを表示する

2 ローターリーコマンダーを回して、トラック番号、曲名、ファイル名、フォルダー名を切り換える

次のトラック／曲／ファイル／フォルダーを選ぶ：右に回す

前のトラック／曲／ファイル／フォルダーを選ぶ：左に回す




3 フォルダーの表示時に、ロータリーコマンダーを押して、そのフォルダー内のフォルダー／ファイルを表示する

 メモ

- フォルダーが表示されているときにロータリーコマンダーを長く押すと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。

4 トラック／曲／ファイルの表示時に、ロータリーコマンダーを押して、再生する

 メモ

- ロータリーコマンダーを回して、フォルダー名やファイル名を切り換えることもできます。
- 前のリスト (1つ上の階層のフォルダー) に戻るには、 /DISP ボタンを押します。
- リスト表示画面から再生画面に戻るには、BAND/ ボタンまたは  ボタンを押します。
- トラック／フォルダー／ファイルリストは、必ず先頭・ROOT から表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、「NO FILES」と表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンダーを押しても再生されません。
- トラック番号やトラック／フォルダー／ファイルリストは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

放送局を1局ずつ登録する

よく聞く放送局を1局ずつ手で登録できます(プリセットメモリー)。登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 登録するバンド、登録したい放送局を選ぶ

(⇒「ラジオのふだんの操作」22ページ)

2 🔍 ボタンを押す

ステーションリストが表示されます。

3 登録したいプリセット番号を選ぶ

ロータリーコマンドを回して、1～6の中から選びます。

4 ロータリーコマンドを長く押す

放送局が登録されます。

登録動作中に押したプリセット番号(登録番号)が点滅します。

登録が完了するとプリセット番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

1～6のプリセット番号に登録した放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中からさがすことができます。

1 バンドを選ぶ

(⇒「ラジオのふだんの操作」22ページ)

2 🔍 ボタンを押す

ステーションリストが表示されます。

3 ロータリーコマンドを回して、放送局を選ぶ

ロータリーコマンドを回すことに放送局が切り換わります。

次の放送局を選ぶとき：右に回す

前の放送局を選ぶとき：左に回す

4 ロータリーコマンドを押す

選んだ放送局が受信されます。

メモ

- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます(⇒「放送局名を選ぶ」34ページ)。
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/🔍 ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

放送局名を表示する

受信している放送局の放送局名を表示できません。

1 冪/DISP ボタンを押す

放送局名が表示されます。
もう一度押すと放送局名表示が消えます。

知っている则便利

- 表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更できます（⇒「放送局名を選ぶ」34ページ）。

ファンクションメニューの切り換えかた

「複数の放送局を自動的に登録する」「放送局名を選ぶ」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



1 ロータリーコマンドーを押す

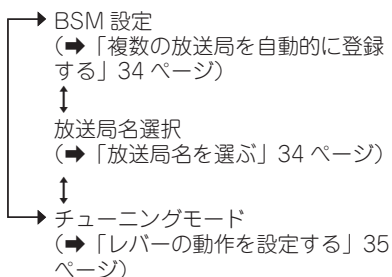
メインメニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドーを回してFUNCTIONを選び、ロータリーコマンドーを押す


ファンクションメニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。



メモ

- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻るには 冪/DISP ボタンを押します。

複数の放送局を自動的に登録する

BSM設定

受信状態の良い放送局を自動でさがして登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます。



BSMとは

- BSMは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。

1 登録するバンドを選ぶ

(⇒「ラジオのふだんの操作」22ページ)

2 ロータリーコマンドーを操作して、BSM設定にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」33ページ)

3 ロータリーコマンドーを押す

BSMによる登録が始まります。

登録が完了するとステーションリストに切り換わり、プリセット番号1に登録された放送局を受信します。



メモ

- 登録動作中にロータリーコマンドーを押すと、BSMの登録処理を途中でやめることができます。
- 受信状態の良い放送局が登録可能数より少ない場合は、以前に登録した放送局が残る場合があります。

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局を選べます。



ご注意

- 本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 ロータリーコマンドーを操作して、放送局名選択にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」33ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回して、放送局を選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに放送局が切り換わります。

次の放送局名を選ぶとき：右に回す
前の放送局名を選ぶとき：左に回す

4 ロータリーコマンドーを押して、放送局を変更する

5 BAND/📶 ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります。



知っている则便利

- 放送局を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選びます。



メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局が登録されていない場合、「放送局データなし」と表示されます。

レバーの動作を設定する

チューニングモード

Tuner ソース時のレバー動作を設定することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、チューニングモードにする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」33 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

プリセット チャンネル
(登録した放送局を切り換えるとき)



マニュアル シーク
(手動で選局するとき)

3 BAND/📶 ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



1 ロータリーコマンドを押す

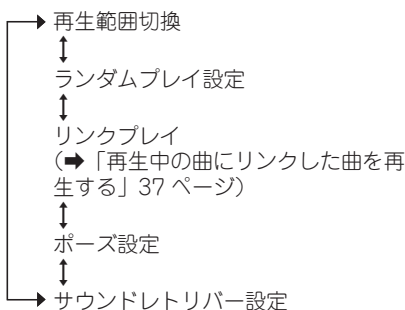
メインメニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドを回してFUNCTIONを選び、ロータリーコマンドを押す

ファンクションメニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。



ご注意

- USB ソース選択中で「NO DEVICE」表示のときは、メインメニューを表示することができません。



メモ

- リンクプレイは、Music ブラウズモード時のみ表示されます (⇒「聞きたい曲をさがす」38 ページ)。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/🔍 ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻するには 🔄 / DISP ボタンを押します。

ファンクションメニューの以下の機能は、CD の場合と基本的に同じです。操作方法については、CD のページをご覧ください。

機能	操作
再生範囲切替	(⇒「繰り返し再生する」28 ページ) 切り換わる再生範囲は、CD の場合とは異なります。 <ul style="list-style-type: none"> → All repeat (オールリピート) ↓ Track repeat (トラックリピート) ↓ Folder repeat (フォルダーリピート)

- All repeat :
すべての曲を繰り返し再生します。
- Track repeat :
いま聞いている曲を繰り返し再生します。
- Folder repeat :
いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

ランダムプレイ設定	(⇒「違う曲順で再生する」29 ページ)
ポーズ設定	(⇒「再生を一時停止する」29 ページ)
サウンドレトリバー設定	(⇒「音を補正して高音質化する」30 ページ)

再生中の曲にリンクした曲を再生する

リンクプレイ

再生中の曲にリンクしたリストの曲を再生します。現在の曲の再生が終わると、リンクした曲に切り換わります。再生できるのは次のリストです。

- ・再生中のアーティストのアルバムリスト
- ・再生中のアルバムに収録されている曲のリスト
- ・再生中のジャンルのアルバムリスト

📌 ご注意

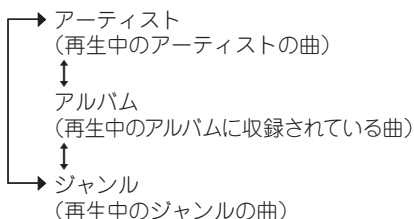
- USB または SD に保存してあるファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。
- リンクのサーチ条件に関連したリストがない場合は、「見つかりません」と表示されます。
- 曲によっては、切り換わる際に終わりや始まりの音が切れる場合があります。

1 ロータリーコマンドを操作して、リンクプレイにする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」36 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。



3 ロータリーコマンドを押して、リンクのサーチ条件を選ぶ

現在の曲の再生が終わると、リンクした曲に切り換わります。

📌 ご注意

- リンクプレイ以外の操作を行うと、リンクプレイでの選択結果が解除される場合があります（例：早送り／早戻し）。

✎ 知っているとも便利

- ふだんの再生画面でロータリーコマンドを長く押し続けても、リンクプレイ設定に切り換えることができます。

タイトルやアーティスト名を表示させる

トラックタイトルやアーティスト名などを表示できます。操作方法は、CDの場合と同じです(⇒30 ページ)。

📌 ご注意

- Music ブラウズモード(⇒38 ページ)で使っているときは、ファイル名とフォルダー名は表示しません。

タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす

ファイル名やフォルダー名の一覧(フォルダー／ファイルリスト)を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。操作方法は、CDの場合と同じです(⇒31 ページ)。

聞きたい曲をさがす

アーティスト、アルバム、曲、ジャンルの項目別リストからお好みの曲を選んで再生できます (Music ブラウズモード)。

メモ




- この機能は、初期設定メニューの「曲のさがしかたを設定する」(75 ページ) で USB memory1/USB memory2/SD card に設定したときに、使用できます。
- アーティスト、アルバム、曲、ジャンルの各項目から検索するために、データベースを構築します。データベースの構築には、1 000 曲あたり 70 秒程度の時間が掛かります。通常は、3 000 曲程度を推奨します。また、ファイルによっては、さらに時間がかかることがあります。
- USB または SD に保存してあるファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。
- データベース、またはリスト構築中は、キーが効かないことがあります。
- 本機の電源が ON/OFF されるごとに、リストを再構築します。

5 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンドを回してお好みの曲を選び、ロータリーコマンドを押します。

お好みの曲の再生が始まります。

知っていると便利

- レバーを回して、項目を選ぶこともできます。
- 前の項目 (1 つ上の階層) に戻るには、 /DISP ボタンを押します。
- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、BAND/ ボタンまたは  ボタンを押します。
- 再生したい項目を選んでおられるときにロータリーコマンドを長く押しすと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。

1 を押す

Music ブラウズモードになります。

2 ロータリーコマンドを回して、項目を選ぶ

アーティスト、アルバム、曲、ジャンルの中から選べます。

3 ロータリーコマンドを押す

4 項目を絞り込む

手順 2、3 の操作を繰り返して、項目を絞り込むことができます。

チャプターを選ぶ

再生しているオーディオブックにチャプターがある場合、チャプターを選べます。

1 レバーを回す

チャプターが切り換わります。

次のチャプターを選ぶとき：右に回す

前のチャプターを選ぶとき：左に回す

聞きたい曲をさがす

ジャンル、アーティスト、アルバムなどの項目から、お好みの曲を選んで再生できます。

📌 ご注意

- iPod に保存してあるファイルの数によっては、項目の表示に時間がかかる場合があります。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。

1 🔍 ボタンを押す

ブラウズモードになります。

2 ローターリーコマンドーを回して項目を選び、ロータリーコマンドーを押す

プレイリスト、アーティスト、アルバム、曲、Podcast（ポッドキャスト）、ジャンル、作曲者、オーディオブックの中から選べます。

3 手順2の操作を繰り返して、項目を絞り込む

4 ローターリーコマンドーを回してお好みの曲を選び、ロータリーコマンドーを押す

お好みの曲の再生が始まります。

📌 知っているると便利

- レバーを回して、項目を選ぶこともできます。
- 前の項目（1つ上の階層）に戻るには、**⏪** / **DISP** ボタンを押します。
- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、**BAND** / **🔍** ボタンを押します。
- アルファベット順に表示する項目のときに、**🔍** ボタンを押すと、アルファベットサーチモードになります（→「リスト表示をアルファベットで検索する」このページ）。
- 再生したい項目を選んでおるときにロータリーコマンドーを長く押すと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。

リスト表示をアルファベットで検索する

アーティストやアルバムなどのリスト表示中に、頭文字のアルファベットを指定して検索できます。

📌 ご注意

- アルファベット順に表示されるリストのときに操作できます。
- 頭文字が、半角のアルファベット、数字、および記号で記録されているものが対象です。

1 アーティストやアルバムなどのリストを表示する

「聞きたい曲をさがす」の手順 1～2 を参照して、アーティストやアルバムなどのリストを表示します。

（→「聞きたい曲をさがす」このページ）

2 リスト表示中に 🔍 ボタンを押す

アルファベットサーチモードに切り換わります。

もう一度 🔍 ボタンを押すと、アルファベットサーチモードを解除します。

次のページに続く

メモ

- ロータリーコマンドを2回続けて早回しすることで、アルファベットサーチモードに切り換えることもできます。

3 ロータリーコマンドを回して検索したいアルファベットを表示し、ロータリーコマンドを押す

指定したアルファベットを先頭にして、リストが表示されます。

ご注意

- 対象となる曲がなかったときは、「NOT FOUND」が表示されたあとリスト表示に戻ります。

メモ

- ブラウズモード(➡「聞きたい曲をさがす」39ページ)に戻るには、DISP ボタンを押します。

4 ロータリーコマンドを操作してお好みの曲を選ぶ

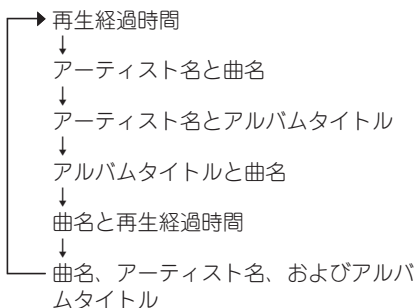
(➡「聞きたい曲をさがす」39ページ)

タイトルやアーティスト名を表示させる

iPod に記録されている曲名やアーティスト名、アルバムタイトルなどを表示させることができます。

1 DISP ボタンを押す

DISP ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。

iPod で選曲して本機から再生する

選曲などの操作を、本機と iPod のどちらでするか切り換えられます(コントロールモード)。iPod に設定すると、iPod の画面で操作できます。

APP に設定すると、iPod アプリケーションからの音声を本機で再生できます。

AUDIO に設定すると、本機から選曲などを操作できます。

ご注意

- 以下の iPod では本機能は使用できません。
 - 第5世代 iPod
 - 第1世代 iPod nano最新の情報については、カロッツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。
- APP モードに対応している iPod は以下の iPod です。
 - 第4世代 iPod touch : Ver. 4.1 以降
 - 第3世代 iPod touch : Ver. 3.0 以降
 - 第2世代 iPod touch : Ver. 3.0 以降
 - 第1世代 iPod touch : Ver. 3.0 以降
 - iPhone 4 : Ver. 4.1 以降
 - iPhone 3GS : Ver. 3.0 以降
 - iPhone 3G : Ver. 3.0 以降
 - iPhone : Ver. 3.0 以降

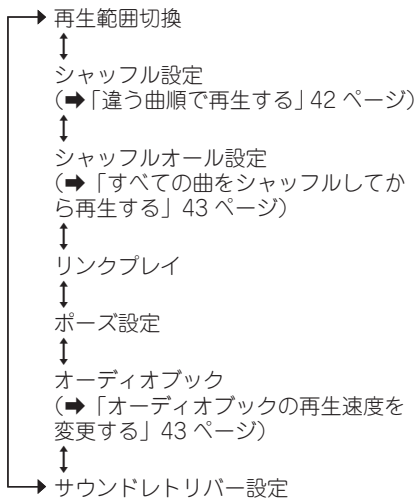
1 BAND/ AUDIO ボタンを押して、コントロールモードを切り換える

BAND/ AUDIO ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 ローターリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。



ご注意

- iPod および APP に設定した場合は、以下の制限があります。
 - －ファンクションメニューは、ポーズ設定とサウンドレトリバー設定のみ選択できます。
 - －ブラウズモード (→「聞きたい曲をさがす」39 ページ) には切り換わりません。
 - －音量は本機からしか調節できません。
- iPod/APP に設定すると、再生は停止されず。iPod を操作して、再生してください。

知っている则便利

- コントロールモードを iPod/APP に設定していても、本機から以下の操作ができます。
 - －タイトルの表示切り換え (「iPod」設定のみ)
 - －一時停止
 - －選曲
 - －早送り／早戻し

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



1 ローターリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます。

2 ローターリーコマンドを回してFUNCTIONを選び、ロータリーコマンドを押す

ファンクションメニューが表示されます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻るには、DISP ボタンを押します。
- 「コントロールモード」を「iPod」「APP」にした場合、ポーズ設定とサウンドレトリバー設定のみ選択できます (→「iPod」で選曲して本機から再生する」40 ページ)。

次のページに続く

ファンクションメニューの以下の機能は、CDの場合と基本的に同じです。操作方法については、CDのページをご覧ください。

機能	操作
再生範囲切換	<p>(⇒「繰り返し再生する」28ページ) 切り換わる再生範囲は、CDの場合とは異なります。</p> <p>Repeat One (1曲リピート) ↓ Repeat All (リスト内全曲リピート)</p> <p>Repeat One : いま聞いている曲を繰り返し再生します。</p> <p>Repeat All : いま聞いているリスト内のすべての曲を繰り返し再生します。</p>
リンクプレイ	(⇒「再生中の曲にリンクした曲を再生する」37ページ)
ポーズ設定	(⇒「再生を一時停止する」29ページ)
サウンドレトリバー設定	(⇒「音を補正して高音質化する」30ページ)

違う曲順で再生する

シャッフル設定

曲やアルバムを順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ロータリーコマンドーを操作して、シャッフル設定にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」41ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



Shuffle Songs :

いま聞いているリスト内の曲をランダムに再生します。

Shuffle Albums :

アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

3 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

すべての曲をシャッフルしてから再生する

シャッフルオール設定

iPod のミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同 (ランダム) に再生できます。

1 ロータリーコマンダーを操作して、シャッフルオール設定にする

(→「ファンクションメニューの切り換えかた」41 ページ)

2 ロータリーコマンダーを押す

「ON」が約 2 秒間表示され、全曲シャッフル再生が始まります。

3 BAND/ [] ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- 全曲シャッフルを解除するには、「シャッフル設定」で「Shuffle OFF」を選びます (→「違う曲順で再生する」42 ページ)。

オーディオブックの再生速度を変更する

オーディオブック

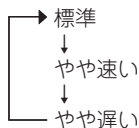
オーディオブックの再生中に、オーディオブックの再生速度を変更できます。

1 ロータリーコマンダーを操作して、オーディオブックにする

(→「ファンクションメニューの切り換えかた」41 ページ)

2 ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 BAND/ [] ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



ファンクションメニューの以下の機能は、CDの場合と基本的に同じです。操作方法については、CDのページをご覧ください。

機能	操作
ポーズ設定	(⇒「再生を一時停止する」29ページ)

1 ロータリーコマンドを押す

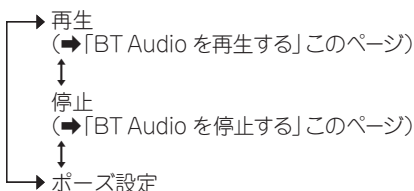
メインメニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドを回してFUNCTIONを選び、ロータリーコマンドを押す

ファンクションメニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ ボタンを押します。(約30秒間何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻するには /DISP ボタンを押します。

BT Audio を再生する

再生

1 ロータリーコマンドを操作して、再生にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」このページ)

2 ロータリーコマンドを押す

BT Audio の再生が始まります。

BT Audio を停止する

停止

1 ロータリーコマンドを操作して、停止にする

(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」このページ)

2 ロータリーコマンドを押す

BT Audio の再生が停止します。

本機とBluetooth機器の接続

携帯電話やオーディオプレーヤーなど、Bluetoothに対応した機器を本機に接続して使用することができます。

ここでは、本機との接続方法を説明しています。接続する機器側の操作方法については、接続する機器の説明書をご覧ください。

メモ

- 本機は、以下のBluetoothプロファイルに対応しています。
 - OPP (Object Push Profile)
 - HSP (Headset Profile)
 - HFP (Hands-Free Profile)
 - A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
 - AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) 1.0
 - SDP (Service Discovery Protocol)

追加デバイス
(➡「Bluetooth機器を登録する」46ページ)



特殊デバイス
(➡「特殊なBluetooth機器を接続する」47ページ)



自動接続設定
(➡「自動接続を設定する」48ページ)



検出可能
(➡「Bluetooth機器からの検出状態を設定する」48ページ)



パスコード編集
(➡「本機のパスコードを変更する」48ページ)



デバイス情報
(➡「本機のBluetooth機器情報を確認する」49ページ)

Bluetooth接続メニューの切り換えかた

画面例



1 PHONE ボタンを長く押す

Bluetooth接続メニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。

➡ デバイスリスト

(➡「接続するBluetooth機器を切り換える」このページ)



デバイス削除

(➡「登録済みのBluetooth機器を削除する」46ページ)



メモ

- 本機とBluetooth機器が接続状態の場合、追加デバイスおよび特殊デバイスは表示されません。

接続するBluetooth機器を切り換える

デバイスリスト

Bluetooth機器を複数台登録している場合、登録済みのBluetooth機器をリスト表示して、接続先を切り換えることができます。

1 ロータリーコマンドを操作して、デバイスリストにする

(➡「Bluetooth接続メニューの切り換えかた」このページ)

2 ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回して、接続するBluetooth機器を選ぶ

次のページに続く



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを長く押しと、デバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4

ロータリーコマンドーを押す

選んだ Bluetooth 機器へ接続先を切り換えます。


5

BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。



メモ

- 操作を中止する場合は、/DISP ボタンを押します。前の画面に戻ります。

5

ロータリーコマンドーを押す

選んだ Bluetooth 機器が削除されます。

6

BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

登録済みの Bluetooth 機器を削除する

デバイス削除

登録済みの Bluetooth 機器を削除することができます。

1

ロータリーコマンドーを操作して、デバイス削除にする

(⇒「Bluetooth 接続メニューの切り換えかた」45 ページ)

2

ロータリーコマンドーを押す

3

ロータリーコマンドーを回して、削除する Bluetooth 機器を選ぶ



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを長く押しと、デバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4

ロータリーコマンドーを押す

確認画面が表示されます。

Bluetooth 機器を登録する

追加デバイス

Bluetooth 機器を使うには、本機に Bluetooth 機器を登録する必要があります。

本機に登録可能な Bluetooth 機器は、3 台までです。

1

ロータリーコマンドーを操作して、追加デバイスにする

(⇒「Bluetooth 接続メニューの切り換えかた」45 ページ)

2

ロータリーコマンドーを押す

周辺の Bluetooth 機器を検索します。検索中にもう一度ロータリーコマンドーを押すと、中止します。

登録可能な Bluetooth 機器が見つかったら、デバイス名（機器名称）が表示されます。

登録可能な Bluetooth 機器が複数台見つかった場合は、ロータリーコマンドーを左右に回して、接続する Bluetooth 機器を選びます。



メモ

- Bluetooth 機器側の設定が OFF（Bluetooth 機能が使用できない状態）の場合は、検索しても見つかりません。あらかじめ Bluetooth 機器側の設定を ON（Bluetooth 機能が使用できる状態）にしてください。

3 ロータリーコマンドを押して、選んだBluetooth機器を接続する

Bluetooth 機器側にパスコードの入力が求められます。

Bluetooth 機器を操作して、パスコードを入力してください。

登録が完了すると、本機のディスプレイに、「ペアリング完了」と表示されます。

メモ

- 工場出荷時のパスコードは、「0000」です。パスコードは変更できます (⇒「本機のパスコードを変更する」48 ページ)。
- ロータリーコマンドを長く押し、デバイス名 (機器名称) とデバイスアドレスを切り換えることができます。
- すでに3台の Bluetooth 機器が本機に登録されている場合、「デバイス Full」と表示されます。登録されている Bluetooth 機器を削除してください (⇒「登録済みの Bluetooth 機器を削除する」46 ページ)。

4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- デバイス名が取得できなかった場合は、「ERROR」と表示されます。
- 登録可能な Bluetooth 機器が見つからなかった場合は、「見つかりません」と表示されます。

特殊な Bluetooth 機器を接続する

特殊デバイス

接続が難しい特殊な Bluetooth 機器を本機で使用する場合は、このメニューで接続します。

1 ロータリーコマンドを操作して、特殊デバイスにする

(⇒「Bluetooth 接続メニューの切り換えかた」45 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

Bluetooth 機器の選択画面になります。

3 ロータリーコマンドを回して、接続するBluetooth機器を選ぶ

知っている则便利

- すでに3台の Bluetooth 機器が本機に登録されている場合、「デバイス Full」と表示されます。登録されている Bluetooth 機器を削除してください (⇒「登録済みの Bluetooth 機器を削除する」46 ページ)。

4 ロータリーコマンドを押して、選んだBluetooth機器を接続する

選んだ Bluetooth 機器が接続されます。

5 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

自動接続を設定する

自動接続設定

登録済みの Bluetooth 機器の中で、最後に接続した機器に、自動で接続することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、自動接続設定にする

(⇒「Bluetooth 接続メニューの切り換えかた」45 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
ON

3 BAND/ 戻る ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

Bluetooth 機器からの検出状態を設定する

検出可能

本機能を ON にすると、Bluetooth 機器から本機を検出することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、検出可能にする

(⇒「Bluetooth 接続メニューの切り換えかた」45 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON
↓
OFF

3 BAND/ 戻る ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

本機のパスコードを変更する

パスコード編集

本機のパスコードを変更することができます。工場出荷時は「0000」です。

📌 ご注意

- 空白は入力できますが、無効な文字です。空白を入力した場合、以下の制限があります。
 - 途中で空白を入力した場合、それ以降の文字が無効となってパスコードが確定されません。
 - 先頭に空白を入力した場合、パスコードは確定されません。もう一度、パスコードを編集してください。

1 ロータリーコマンドーを操作して、パスコード編集にする

(⇒「Bluetooth 接続メニューの切り換えかた」45 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 パスコードを変更する

■ 入力する数字を選ぶとき

ロータリーコマンドーを回す
数字を大きくするとき：右に回す
数字を小さくするとき：左に回す

■ 入力する位置を選ぶとき

ロータリーコマンドーを押す
押すたびに入力する位置が右に移動します。

4 ロータリーコマンドーを長く押す

パスコードの編集を終了します。

5 BAND/🔑 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

本機の Bluetooth 機器 情報を確認する

デバイス情報

本機の機器名称（デバイス名）や機器アドレス（デバイスアドレス）を確認することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作 して、デバイス情報にする

（→「Bluetooth 接続メニューの切り換えかた」45 ページ）

2 ロータリーコマンドーを押す

本機のデバイス名（機器名称）が表示されます。

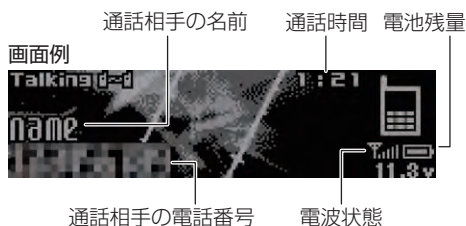
ロータリーコマンドーを押すと、デバイスアドレス表示に切り換わります。

3 BAND/🔑 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

本機を使った携帯電話の使用方法について

本機では、Bluetooth 対応の携帯電話を使用することができます。



メモ

- 初めて本機で携帯電話を使用する場合は、携帯電話を本機に登録する必要があります (→「Bluetooth 機器を登録する」46 ページ)。
- 組み合わせる Bluetooth 対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も併せてご覧ください。

電話に出る・電話を切る

どのソースを聞いているときでも、本機の電源が OFF のときでも、かかってきた電話に出ることができます。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンドを押して、電話に出る

電話がつながり、通話できます。

知っている则便利

- 通話中に BAND/ 切 ボタンを押すと、ハンズフリー通話とプライベート通話 (携帯電話で通話) を切り換えることができます。
- 着信すると、本機のディスプレイに電話番号と名前 (電話帳に登録されている場合のみ) が表示されます。
- 通話中に別の電話がかかってきた場合 (割込通話)、ロータリーコマンドを押すと、通話の相手が切り換わります。
- 着信中にロータリーコマンドを回すと、着信音量を調節することができます。

ご注意

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできませんが、通話を個別に切ることができます。

2 ロータリーコマンドを回して、受話音量を調節する

以下のように受話音量を調節できます。

音量を大きくする：右に回す

音量を小さくする：左に回す

知っている则便利

- 通話中にレバーを回すと、通話音量のレベルを3段階で調節することができます。プライベート通話中は動作しません。

3 PHONE ボタンを押して、電話を切る

着信を拒否する

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話の着信を拒否することもできます。

1 電話がかかってきたら、PHONE ボタンを押す

かかってきた電話の着信を拒否します。

メモ

- 通話中に別の電話がかかってきた場合、PHONE ボタンをもう一度押すと、かかってきた電話の着信を拒否します。

PHONEメニューの切り換えかた

PHONEメニューで以下の機能を選んで操作できます。

画面例

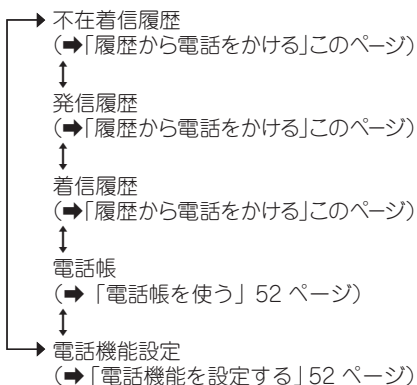


1 PHONE ボタンを押す

PHONEメニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。



メモ

- 電話の待ち受け画面に戻るときは、**BAND/** ボタンを押します。
- 携帯電話が接続されていないときは、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、電話帳には切り換わりません。
- ひとつ前の画面に戻るには **↶** /DISP ボタンを押します。

履歴から電話をかける

接続中の携帯電話ごとに、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴が各 80 件まで本機に記録されます。記録された履歴データから、電話をかけることができます。

1 PHONEボタンとロータリーコマンドーを操作して、不在着信履歴/発信履歴/着信履歴のいずれかにする

(⇒「PHONEメニューの切り換えかた」このページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回して、履歴データを選ぶ

次の履歴データを選ぶとき：右に回す
前の履歴データを選ぶとき：左に回す

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだ履歴データの電話番号に電話をかけます。

通話を終了するときは、PHONE ボタンを押します。

メモ

- 電話帳データに登録されている電話番号は、名前が表示されます。

携帯電話を使う

電話帳を使う

接続中の携帯電話ごとに、電話帳の情報（名前と電話番号、電話番号の種別）が1,000件まで自動的に本機へ転送されます。転送された電話帳から、電話をかけることができます。

メモ

- 1件あたり複数の電話番号が登録されている場合は、最大5件まで転送されます。

1 PHONEボタンとロータリーコマンダーを操作して、電話帳にする

(⇒「PHONEメニューの切り換えかた」51ページ)

2 ロータリーコマンダーを押す

3 ロータリーコマンダーを回して、電話帳データを選ぶ

次の電話帳データを選ぶとき：右に回す
前の電話帳データを選ぶとき：左に回す

メモ

- ロータリーコマンダーを長く押しすごとに、電話帳データの表示を名前または電話番号に切り換えます。

4 ロータリーコマンダーを押す

選んだ電話帳データの相手に電話をかけます。

通話を終了するとき、PHONEボタンを押します。

メモ

- ひとつの電話帳データに対して、複数の電話番号が登録されている場合は、ロータリーコマンダーを回して、選ぶことができます。

電話機能を設定する

電話機能設定

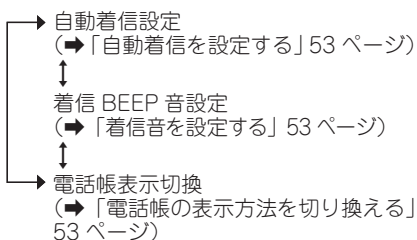
1 PHONEボタンとロータリーコマンダーを操作して、電話機能設定にする

(⇒「PHONEメニューの切り換えかた」51ページ)

2 ロータリーコマンダーを押す

3 ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次のように切り換わります。



メモ

- 携帯電話が接続されていないときは、電話帳表示切換には切り換わりません。

自動着信を設定する

自動着信設定を ON に設定すると、着信後約 5 秒で自動的に応答して通話できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、自動着信設定にする

(→「電話機能を設定する」52 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON
↓
OFF

3 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

着信音を設定する

本機側で用意された着信音を使用するかしないか設定できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、着信 BEEP 音設定にする

(→「電話機能を設定する」52 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON (本機の着信音を使用)
↓
OFF (携帯電話の着信音を使用)

3 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

電話帳の表示方法を切り換える

転送された電話帳に名前が登録されている場合、姓と名を入れ換えて表示することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、電話帳表示切換にする

(→「電話機能を設定する」52 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

「切り換えますか？」と表示されたら、もう一度ロータリーコマンドーを押します。

名前の姓と名が入れ換わります。

3 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。



メモ

- 接続した携帯電話や、登録されている名前によっては、表示方法を切り換えられない場合があります。

DSP について

ここでは、DSP を使用した音の調節について説明しています。本機には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の2つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます (→「DSP モードを切り換える」16 ページ)。



DSP とは

- DSP とは、「Digital Signal Processor」の略です。DSP を使うことで、細かな音の調節が可能になります。



動作モードについて

- 3-way ネットワークモード (NW) は、高・中・低音域のそれぞれの音域 (バンド) を専用のアンプとスピーカーで再生する 3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築することができます。3-way ネットワークモードには、マルチアンプ・マルチスピーカーシステムに不可欠なネットワーク機能やタイムアライメント機能があり、各音域の設定条件を厳密にコントロールすることができます。
- スタンダードモード (STD) は、フロント・リアの4スピーカーシステム、またはフロント・リア・サブウーファーの6スピーカーシステムを構築することができます。また、スタンダードモードには、簡単にリアルな音場を再現することができる SOUND FIELD CONTROL 機能があります。



メモ

- 車のバッテリー交換などで、本機に電源が供給されなくなった場合でも、オーディオ調節の内容は消去されません。オーディオ調節の内容を消去したいときは、オーディオ設定をリセット (→「オーディオ設定をリセットする」77 ページ) してください。



動作モードのマークについて

この説明書では、説明を分かりやすくするため、以下のマークを使用しています。

NW

このマークは、3-way ネットワークモードにしかない機能および 3-way ネットワークモードでの操作をあらわします。

STD

このマークは、スタンダードモードにしかない機能およびスタンダードモードでの操作をあらわします。

- 何もマークが付いていない機能や操作は、2つのモードに共通して使用できます。

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

3-way ネットワークモード **NW**

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。



手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

- 音場の中心で聞く (POSITION)
- オートタイムアライメント & イコライジングを行う
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを大まかに補正する (GRAPHIC EQUALIZER 1)



きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調整をすることで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 左右の音場バランスを調節する (FADER/BALANCE)
- タイムアライメントを調節する (TIME ALIGNMENT 2)
- ネットワークを調節する (NETWORK 1 - 4)
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを細かく補正する (GRAPHIC EQUALIZER 2)

スタンダードモード **STD**

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。



手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

- 音場の中心で聞く (POSITION)
- オートタイムアライメント & イコライジングを行う
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを大まかに補正する (GRAPHIC EQUALIZER 1)



きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調整をすることで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 左右の音場バランスを調節する (FADER/BALANCE)
 - サブウーファーを使う (SUB WOOFER 1 - 3)
 - 低い音をスピーカーから出力させないようにする (FRONT HPF 1 - 2, REAR HPF 1 - 2)
 - イコライザーカーブを選ぶ
 - イコライザーカーブを細かく補正する (GRAPHIC EQUALIZER 2)
- 次の機能は、お好みに合わせてお使いください。



便利な機能

- 小音量時の音にメリハリをつける (LOUDNESS)
- イメージにあった演奏会場を再現する (SOUND FIELD CONTROL) **STD**
- 騒音に合わせて音量を変える (AUTOMATIC SOUND LEVELIZER)
- 各ソースの音量の違いをそろえる (SOURCE LEVEL ADJUSTER)

オーディオ調節メニューの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節メニューで機能を選んで操作します。

画面例



次のページに続く

3

ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、切り換わります。

(切り換わり順は、選んだ動作モードによって異なります。詳しくは、各モード別の切り換わり順をご覧ください。)



ご注意

- USB ソース選択中で「NO DEVICE」表示のときは、メインメニューを表示することができません。



メモ

- オーディオ調節メニューは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、スタンダードモード時のイコライザー調節モード (GRAPHIC EQUALIZER 1)、3-way ネットワークモード時のイコライザー 16 バンド調節モード (GRAPHIC EQUALIZER 2) やタイムアライメントモード 2 (TIME ALIGNMENT 2)、ネットワークモード (NETWORK 1 - 4) を選んでいる場合、自動では解除されません。
- サブウーファーモード 2 (SUB WOOFER 2) とサブウーファーモード 3 (SUB WOOFER 3) はサブウーファーモード 1 (SUB WOOFER 1) でサブウーファーを ON にしているときだけ切り換わります。
- ラジオの FM を聞いているときは、SLA モード (SOURCE LEVEL ADJUSTER) には切り換わりません。
- オーディオ調節メニューを解除する場合は、BAND/ ボタンを押します。

1

ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます。

2

ロータリーコマンドを回してAUDIOを選び、ロータリーコマンドを押す

オーディオ調節メニューが表示されます。

3-way ネットワークモードの場合

NW

- 音量バランス調節モード (BALANCE)
(⇒「前後左右の音量バランスを調節する」58ページ)
- ↑↓
- ネットワークモード 1 (NETWORK 1)
(⇒「ネットワークを調節する」62 ページ)
- ↑↓
- ネットワークモード 2 (NETWORK 2)
(⇒「ネットワークを調節する」62 ページ)
- ↑↓
- ネットワークモード 3 (NETWORK 3)
(⇒「ネットワークを調節する」62 ページ)
- ↑↓
- ネットワークモード 4 (NETWORK 4)
(⇒「ネットワークを調節する」62 ページ)
- ↑↓
- リスニングポジションセクターモード
(POSITION)
(⇒「リスニングポジションを選ぶ」57 ページ)
- ↑↓
- タイムアライメントモード 1
(TIME ALIGNMENT 1)
(⇒「タイムアライメントを選ぶ」59 ページ)
- ↑↓
- タイムアライメントモード 2
(TIME ALIGNMENT 2)
(⇒「タイムアライメントを調節する」59 ページ)
- ↑↓
- ラウドネスモード (LOUDNESS)
(⇒「小音量時の音にメリハリをつける」69 ページ)
- ↑↓
- イコライザー調節モード
(GRAPHIC EQUALIZER 1)
(⇒「イコライザーカーブをだまかに補正する」
67 ページ)
- ↑↓
- イコライザー 16 バンド調節モード
(GRAPHIC EQUALIZER 2)
(⇒「イコライザーカーブを細かく調節する」
68 ページ)
- ↑↓
- オートイコライザーモード (AUTO EQ)
(⇒「オートイコライザーを ON/OFF する」
67 ページ)
- ↑↓
- オートマッチックサウンドレベライザーモード
(AUTOMATIC SOUND LEVELIZER)
(⇒「騒音に合わせて音量を変える」69 ページ)
- ↑↓
- ソースレベルアジャスターモード
(SOURCE LEVEL ADJUSTER)
(⇒「各ソースの音量の違いをそろえる」70 ページ)

スタンダードモードの場合

STD

- 音量バランス調節モード (FADER/BALANCE)
(⇒「前後左右の音量バランスを調節する」58 ページ)
- ↑↓

- リスニングポジションセクターモード
(POSITION)
(⇒「リスニングポジションを選ぶ」57 ページ)
- ↑↓
- タイムアライメントモード 1
(TIME ALIGNMENT 1)
(⇒「タイムアライメントを選ぶ」59 ページ)
- ↑↓
- タイムアライメントモード 2
(TIME ALIGNMENT 2)
(⇒「タイムアライメントを調節する」59 ページ)
- ↑↓
- ラウドネスモード (LOUDNESS)
(⇒「小音量時の音にメリハリをつける」69 ページ)
- ↑↓
- イコライザー調節モード
(GRAPHIC EQUALIZER 1)
(⇒「イコライザーカーブをだまかに補正する」
67 ページ)
- ↑↓
- イコライザー 16 バンド調節モード
(GRAPHIC EQUALIZER 2)
(⇒「イコライザーカーブを細かく調節する」
68 ページ)
- ↑↓
- サブウーファーモード 1 (SUB WOOFER 1)
(⇒「サブウーファーを使う」64 ページ)
- ↑↓
- サブウーファーモード 2 (SUB WOOFER 2)
(⇒「サブウーファーを使う」64 ページ)
- ↑↓
- サブウーファーモード 3 (SUB WOOFER 3)
(⇒「サブウーファーを使う」64 ページ)
- ↑↓
- フロントハイパスフィルターモード 1
(FRONT HPF 1)
(⇒「低い音を出力しないようにする」65 ページ)
- ↑↓
- フロントハイパスフィルターモード 2
(FRONT HPF 2)
(⇒「低い音を出力しないようにする」65 ページ)
- ↑↓
- リアハイパスフィルターモード 1 (REAR HPF 1)
(⇒「低い音を出力しないようにする」65 ページ)
- ↑↓
- リアハイパスフィルターモード 2 (REAR HPF 2)
(⇒「低い音を出力しないようにする」65 ページ)
- ↑↓
- サウンドフィールドコントロールモード
(SOUND FIELD CONTROL)
(⇒「イメージに合った演奏会場を再現する」
67 ページ)
- ↑↓
- オートイコライザーモード (AUTO EQ)
(⇒「オートイコライザーを ON/OFF する」67 ページ)
- ↑↓
- オートマッチックサウンドレベライザーモード
(AUTOMATIC SOUND LEVELIZER)
(⇒「騒音に合わせて音量を変える」69 ページ)
- ↑↓
- ソースレベルアジャスターモード
(SOURCE LEVEL ADJUSTER) (⇒「各ソース
の音量の違いをそろえる」70 ページ)

左右チャンネル調整モードの切り換えかた

本機は、左右チャンネル共通、または左右チャンネル独立にオーディオ調整を行うことができます。

左右共通／独立切り換えについて

左右チャンネル共通調整モード、または左右チャンネル独立調整モードを切り換えられるオーディオ調整機能は以下のとおりです。

3-way ネットワークモードの場合 **NW**

- ネットワークモード 1 (NETWORK 1)
- ネットワークモード 2 (NETWORK 2)
- ネットワークモード 3 (NETWORK 3)
- イコライザー 16 バンド調節モード (GRAPHIC EQUALIZER 2)

スタンダードモードの場合 **STD**

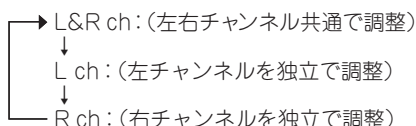
- イコライザー 16 バンド調節モード (GRAPHIC EQUALIZER 2)
- サブウーファーモード 2 (SUB WOOFER 2)
- サブウーファーモード 3 (SUB WOOFER 3)
- フロントハイパスフィルターモード 1 (FRONT HPF 1)
- フロントハイパスフィルターモード 2 (FRONT HPF 2)
- リアハイパスフィルターモード 1 (REAR HPF 1)
- リアハイパスフィルターモード 2 (REAR HPF 2)

1 ロータリーコマンドーを操作して、設定したい機能に切り換える

左右チャンネル共通／左右チャンネル独立の調整を切り換えられる機能を選び、その機能の説明に沿って操作します (→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)。

2 ロータリーコマンドーを長く押し、左右チャンネル共通または左右チャンネル独立を切り換える

ロータリーコマンドーを長く押しごとに、次の順序で切り換わります。



リスニングポジションを選ぶ

POSITION

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション (聞く位置) を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

3-way ネットワークモードを選んでいる場合、“All” は選ばれません。

1 ロータリーコマンドーを操作して、POSITIONにする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押し

3 レバーを回して、乗車位置を選ぶ

次の乗車位置を選ぶ：右に回す
前の乗車位置を選ぶ：左に回す

表示	乗車位置
OFF	設定されていないとき
Left (Front Left)	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
Right (Front Right)	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front (Front Seat)	同乗者が助手席にいるとき
All (All Seat)	同乗者が後部座席にいるとき

STD

4 BAND/ ボタンを押し

ふだんの再生画面に戻ります。

前後左右の音量バランスを調節する

FADER/BALANCE

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

3-way ネットワークモードを選んでいる場合は、前後のバランスは調節できません。

NW

1 ロータリーコマンドを操作して、BALANCEにする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

3 レバーを回して、左右(Left/Right)の音量バランスを調節する

右を強める：右に回す

左を強める：左に回す

左右のバランスは Left25 ~ Right25 の範囲で調節できます。

4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

STD

1 ロータリーコマンドを操作して、FADER/BALANCEにする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを押して、前後(Front/Rear)と左右(Left/Right)のバランス設定を切り換える

4 レバーを回して、音量バランスを調節する

前後 (Front/Rear) のバランス設定時

前を強める：右に回す

後ろを強める：左に回す

左右 (Left/Right) のバランス設定時

右を強める：右に回す

左を強める：左に回す

前後のバランスは Front25 ~ Rear25 の範囲で調節できます。

左右のバランスは Left25 ~ Right25 の範囲で調節できます。

5 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

タイムアライメント を選ぶ

TIME ALIGNMENT 1

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。

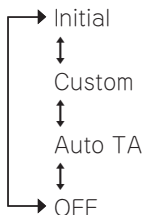
1 ローターコマンドーを操作して、TIME ALIGNMENT 1にする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55ページ)

2 ローターコマンドーを押す

3 レバーを回す

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。



タイムアライメントの種類 内容

Initial	工場出荷時の状態
Custom	お好みに合わせて調節したタイムアライメント
Auto TA	Auto TA & EQ で調節したタイムアライメント (⇒「オートタイムアライメント & イコライジングを行う」72ページ)
OFF	タイムアライメントをOFF にします。

メモ

- Auto TA & EQ (⇒「オートタイムアライメント & イコライジングを行う」72ページ)を行っていないときは、“Auto TA”を選ぶことはできません。“Auto TA を設定してください”と表示されます。

4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

タイムアライメント を調節する

TIME ALIGNMENT 2

TIME ALIGNMENT 1 で選んだ内容を基にし、さらに厳密な調節をすることができます。

1 ローターコマンドーを操作して、TIME ALIGNMENT 2にする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55ページ)

2 ローターコマンドーを押す

メモ

- リスニングポジションモード (⇒「リスニングポジションを選ぶ」57ページ)で“Right”か“Left”を選んでいないと、タイムアライメントの調節をすることはできません。“ポジションをFLかFRにしてください”と表示されます。
- タイムアライメントモード1 (TIME ALIGNMENT 1) でOFFを選んでいるときは、タイムアライメントモード2 (TIME ALIGNMENT 2) には切り換わりません。

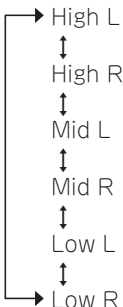
次のページに続く

3 ロータリーコマンドとレバー を操作して、各スピーカーの 距離を調節する

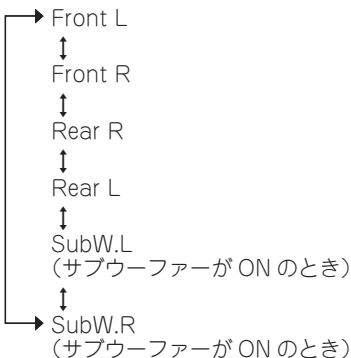
■ ロータリーコマンドを回して 調節するスピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。

NW



STD



■ レバーを回して距離を調節する

距離を遠くするとき：右に回す
距離を近くするとき：左に回す

0.00 cm ~ 400.00 cm の範囲で調節できます。

4 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📝 メモ

- サブウーファーモード 1 (SUB WOOFER 1) でサブウーファーを OFF にしているときは、サブウーファーの調節はできません。
- タイムアライメントを調節すると、タイムアライメントモード 1 の "Custom" に記憶されます (➡ 「タイムアライメントを選ぶ」 59 ページ)。

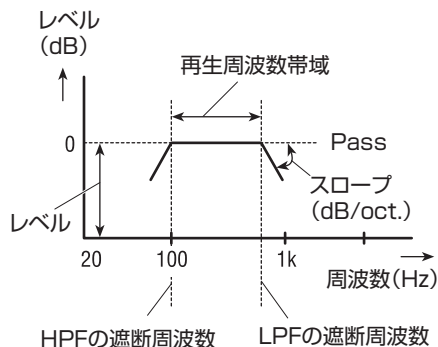
ネットワークを調節する前に **NW**

ネットワークについて

ネットワーク機能は、オーディオ信号を各音域ごとに分割し、それぞれの音域を各音域専用のスピーカーユニットで再生します。各スピーカーユニットの特性に合わせ、再生周波数帯域（ハイパスフィルターやローパスフィルター）やレベル、位相などを厳密に調節できます。

調節項目

ネットワーク機能は、以下の項目の調節が可能です。接続した各スピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合うよう調節してください。



再生周波数帯域

ハイパスフィルター（HPF）やローパスフィルター（LPF）の遮断周波数調節は、各スピーカーユニットの再生周波数帯域を設定することができます。

- HPFは、設定した周波数以下の周波数（低音域）をカットし、高い周波数だけを通すフィルターです。
- LPFは、設定した周波数以上の周波数（高音域）をカットし、低い周波数だけを通すフィルターです。

レベル

スピーカーユニット間の再生レベルを補正することができます。

スロープ

HPF / LPF のスロープ（フィルター特性の減衰量の傾き）調節は、スピーカーユニット間の音のつながりを調節することができます。

- スロープは、周波数が1オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何dB減衰するかを表す値です（単位：dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

位相

各スピーカーユニットの入力信号に対する位相（正相／逆相）を切り換えることができます。スピーカー間の音のつながりが悪いときは、位相を切り換えてみてください。音のつながりが良くなる場合があります。



ネットワーク調節のポイント

遮断周波数調節のポイント

低音域スピーカーをリアトレイに設置した場合、“Low LPF”の遮断周波数を高く設定すると、低音が分離して後ろから聞こえてくるようになります。“Low LPF”の遮断周波数は100 Hz以下に設定することをおすすめします。一般的に、中音域や高音域のスピーカーは、低音域のスピーカーより耐入力力が低く設定されています。

“Mid HPF”や“High HPF”の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、強い低音信号の入力によってスピーカーが破損するおそれがありますので、ご注意ください。

レベル調節のポイント

中音域には、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初に中音域のレベル調節を行い、高音域、低音域の順でレベルを調節することをおすすめします。

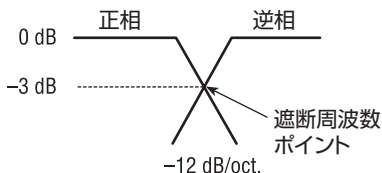
スロープ調節のポイント

スロープの絶対値を小さく（傾きを緩やかに）すると、隣り合うスピーカーユニット間の干渉によって周波数特性に影響を受けやすくなります。スロープの絶対値を大きく（傾きを急に）すると、スピーカーユニット間の音のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

スロープを0 dB/oct.（Pass）に設定すると、オーディオ信号はフィルター回路を回避するため、フィルター回路は効果がなくなります。

位相調節のポイント

両側のフィルター共に遮断周波数ポイントのスロープ設定値を-12 dB/oct.に設定した場合、フィルターの遮断周波数において位相が180度反転します。この場合、位相を反転すると、音のつながりが良くなります。



スピーカーユニットにミュートをかける

各スピーカーユニットをミュートすることができます。ミュートしたスピーカーユニットからは、音が出なくなります。

- ミュートしているときにレベルを調節すると、ミュートが解除されます。

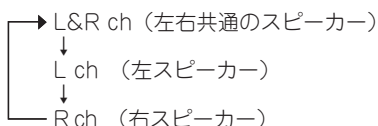
1 ロータリーコマンドーを操作して、NETWORK 1にする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを長く押す

ロータリーコマンドーを長く押すごとに、次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、MUTE のオン/ オフが切り換わります。

5 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ネットワークを調節する

NW

NETWORK 1 - 4

各スピーカーユニットの再生周波数帯域やレベル、位相などを調節することで、各スピーカーユニットの特性に合わせた厳密な設定をすることができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、NETWORK 1にする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

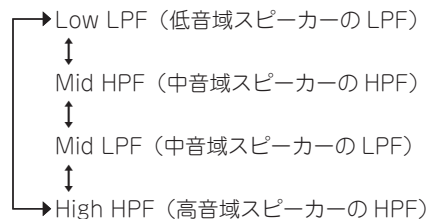
2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(→「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57 ページ)

4 レバーを回す

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。



5 /DISP ボタンを押す

6 ロータリーコマンドーを回して、NETWORK 2にする

7 ロータリーコマンドーを押す

8 ローターコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(→「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57ページ)

9 ローターコマンドーを回して、遮断周波数を調節する

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。

Low LPF、Mid HPF を選んだとき
25 ↔ 31.5 ↔ 40 ↔ 50 ↔ 63 ↔ 80 ↔
100 ↔ 125 ↔ 160 ↔ 200 ↔ 250 (Hz)

Mid LPF、High HPF を選んだとき
1.25k ↔ 1.6k ↔ 2k ↔ 2.5k ↔ 3.15k ↔
4k ↔ 5k ↔ 6.3k ↔ 8k ↔ 10k ↔ 12.5k
(Hz)

10 レバーを回して、レベルを調節する

±0 ～ -24 (dB) の範囲で調節できます。
Low LPF を選んでいる場合は、+6 ～
-24 (dB) の範囲で調節できます。

11 ≡/DISP ボタンを押す

12 ローターコマンドーを回して、NETWORK 3にする

13 ローターコマンドーを押す

14 ローターコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(→「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57ページ)

15 レバーを回して、スロープを調節する

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。

Low LPF を選んだとき
12 ↔ 18 ↔ 24 ↔ 30 ↔ 36 (dB/oct)

Mid HPF、Mid LPF を選んだとき
Pass ↔ 6 ↔ 12 ↔ 18 ↔ 24 (dB/oct)

High HPF を選んだとき
6 ↔ 12 ↔ 18 ↔ 24 (dB/oct)

16 ローターコマンドーを押して、位相を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

NOR (正相)



REV (逆相)

17 ≡/DISP ボタンを押す

18 ローターコマンドーを回して、NETWORK 4にする

19 ローターコマンドーを押して、ステレオとモノラルを切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

Stereo (ステレオ)



MONO (モノラル)



メモ

- 手順4でLow LPFを選んでいるときだけ切り換わります。

20 BAND/↺ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

サブウーファーを使う

STO

SUB WOOFER 1 - 3

本機では、RCA 出力端子に接続したサブウーファーを調節することができます。

工場出荷時は「ON」です。



位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転（干渉）すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相（フロント/リアスピーカーと同時に出力される）が良いか、逆相（フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される）が良いかを選んで設定してください。



カットオフ周波数について

選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

1 ロータリーコマンダーを操作して、SUB WOOFER 1にする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンダーを押す

3 ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON
↓
OFF

4 レバーを回して、ステレオとモノラルを切り換える

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。

Stereo
↓
MONO



メモ

- 手順 3 で ON に設定したときだけ切り換わります。

5 ➡/DISP ボタンを押す

6 ロータリーコマンダーを回して、SUB WOOFER 2にする



メモ

- 手順 3 で OFF に設定したときは、SUB WOOFER 2 は表示されません。

7 ロータリーコマンダーを押す

8 ロータリーコマンダーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(⇒「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57 ページ)

9 ロータリーコマンダーを回して、カットオフ周波数を調節する

ロータリーコマンダーを回すごとに、次のように切り換わります。

50 ↔ 63 ↔ 80 ↔ 100 ↔ 125 ↔ 160
↔ 200 (Hz)

10 レバーを回してレベルを調節する

- 24 ~ + 6 (dB) の範囲で調節できます。

11 ㊦/DISP ボタンを押す

12 ロータリーコマンドーを回して、SUB WOOFER 3にする

メモ

- 手順3でOFFに設定したときは、SUB WOOFER 3は表示されません。

13 ロータリーコマンドーを押す

14 ロータリーコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(⇒「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57ページ)

15 レバーを回して、スロープを調節する

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。

18↔12↔6 (dB/oct)

16 ロータリーコマンドーを押して、位相を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

NOR (正相)



REV (逆相)

17 BAND/🔊 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

低い音を出力しないようにする

STD

FRONT/REAR HPF 1 - 2

選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれで好みの周波数を設定することができます。(スロープを Pass (0 dB/oct.) に設定するとオーディオ信号はフィルター回路を回避するため、ハイパスフィルターは効果がなくなります。)

? ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域(低域)をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

? カットオフ周波数について

選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

? スロープについて

スロープは、周波数が1オクターブ高く(または低く)なったときに、信号が何dB減衰するかを表す値です(単位: dB/oct.)。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

スピーカーユニットにミュートをかける

各スピーカーユニットをミュートすることができます。ミュートしたスピーカーユニットからは、音が出なくなります。

- 選んだスピーカーをミュートした場合、“MUTE”が表示され、そのスピーカーは、何も調節できなくなります。
- ミュートしたスピーカー以外のスピーカーは、調節することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、FRONT HPF 1 / REAR HPF 1にする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55ページ)

FRONT HPF 1: フロントスピーカーをミュートするとき

REAR HPF 1: リアスピーカーをミュートするとき

次のページに続く

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(→「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57ページ)

4 ロータリーコマンドーを押して、選んだスピーカーをミュートする

5 BAND/  ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ハイパスフィルターを設定する

1 ロータリーコマンドーを操作して、FRONT HPF 1 / REAR HPF 1にする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55ページ)

FRONT HPF 1 : フロントスピーカーを調節するとき

REAR HPF 1 : リアスピーカーを調節するとき

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(→「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57ページ)

4 レバーを回して、スロープを調節する

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。

Pass ↔ 6 ↔ 12 (dB/oct)

5  / DISP ボタンを押す

6 ロータリーコマンドーを回して、FRONT HPF 2 / REAR HPF 2にする

FRONT HPF 2 : フロントスピーカーを調節するとき

REAR HPF 2 : リアスピーカーを調節するとき

7 ロータリーコマンドーを押す

8 ロータリーコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(→「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57ページ)

9 ロータリーコマンドーを回して、カットオフ周波数を調節する

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。

50 ↔ 63 ↔ 80 ↔ 100 ↔ 125 ↔ 160
↔ 200 (Hz)

10 レバーを回して、レベルを調節する

次の範囲で調節できます。

-24 ~ 0 (dB) (FRONT HPF 2 時)

-24 ~ +6 (dB) (REAR HPF 2 時)

11 BAND/  ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イメージに合った 演奏会場を再現する **STD**

SOUND FIELD CONTROL

実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

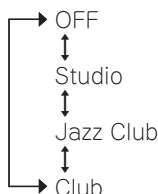
1 ロータリーコマンドーを操作して、**SOUND FIELD CONTROL**にする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 レバーを回す

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。



4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

オートイコライザーを ON / OFF する

AUTO EQ

Auto TA & EQ (→「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」72 ページ) で作成したオートイコライザーカーブを ON / OFF することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、**AUTO EQ**にする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
ON

メモ

- Auto TA & EQ (→「オートタイムアライメント&イコライジングを行う」72 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードの操作はできません(“Auto EQ を設定してください”と表示されます)。

3 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イコライザーカーブ を大まかに補正する

GRAPHIC EQUALIZER 1

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、お好みの音質をつくることができます。

Custom1 について

“Custom1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(携帯電話の通話音声と交通情報、USB1/iPod1 と USB2/iPod2 および SD は、同じ設定になります。)

“Custom2”以外のカーブを選んでいるときに調節すると、“Custom1”に記憶されます。

Custom2 について

“Custom2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“Custom2”を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい“Custom2”として記憶されます。

次のページに続く

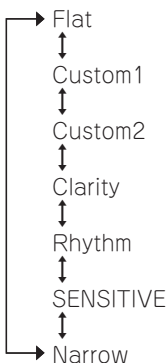
1 ローターコマンドーを操作して、GRAPHIC EQUALIZER 1にする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55ページ)

2 ローターコマンドーを押す

3 ローターコマンドーを回して、調節したいイコライザーカーブを選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに次のように切り換わります。



音を調節する

それぞれのイコライザーカーブの効果

- Clarity：高域、中域が抜けるような、明瞭で透明度の高い音を再生します。
- Rhythm：リズム楽器を、元気よく際立たせるような音色を再生します。
- SENSITIVE：ヴォーカルの表情を豊かに、かつ楽曲の繊細さを引き立てる音色を再生します。
- Narrow：長時間のリスニングに適した、刺激を抑えた音色を再生します。
- Flat：音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。
- Custom：Custom1とCustom2は、お好みに合わせて調節できます(→「イコライザーカーブを細かく調節する」このページ)。

4 レバーを回して、イコライザーカーブを調節する

－6～＋6の範囲で調節できます。

メモ

- “Flat”や“Custom1”、“Custom2”では、調節できません。

5 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イコライザーカーブを細かく調節する

GRAPHIC EQUALIZER 2

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

1 ローターコマンドーを操作して、GRAPHIC EQUALIZER 2にする

(→「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55ページ)

2 ローターコマンドーを操作して、調整するチャンネルを選ぶ

(→「左右チャンネル調整モードの切り換えかた」57ページ)

3 ローターコマンドーを回して、周波数を選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。

20 ↔ 31.5 ↔ 50 ↔ 80 ↔ 125 ↔ 200 ↔
315 ↔ 500 ↔ 800 ↔ 1.25k ↔ 2k ↔
3.15k ↔ 5k ↔ 8k ↔ 12.5k ↔ 20k (Hz)

4 レバーを回して、レベルを調節する

－6～＋6の範囲で調節できます。

5 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

小音量時の音にメリハリをつける

LOUDNESS

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、LOUDNESSにする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
ON

4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

騒音に合わせて音量を変える

AUTOMATIC SOUND LEVELIZER

走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、AUTOMATIC SOUND LEVELIZERにする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
Low (または前回調節した値)

4 レバーを回して、センサーレベルを調節する

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。

Low
↓
Mid-L(Mid-Low)
↓
Mid
↓
Mid-H(Mid-High)
↓
High

メモ

- 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても音量の上げ幅は小さくなります。
- この機能が働いて音量が上がりすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときは音量を下けてください。

5 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

各ソースの音量の 違いをそろえる

SOURCE LEVEL ADJUSTER

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を確かめる

(⇒「ラジオのふだんの操作」22ページ)

2 調節したいソースに切り換える

(⇒「基本的なオーディオの操作」19ページ)

3 ロータリーコマンドーを操作して、SOURCE LEVEL ADJUSTERにする

(⇒「オーディオ調節メニューの切り換えかた」55ページ)

4 ロータリーコマンドーを押す

5 レバーを回して、レベルを調節する

－4～＋4の範囲で調節できます。



メモ

- FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SOURCE LEVEL ADJUSTERに切り換えることはできません。
- AM、CD、USB1/USB2、iPod1/iPod2、SD、AUX1/AUX2（外部機器）、BT Audioのそれぞれの音量差を調節することができます。なお、USB1/USB2、iPod1/iPod2とSD、およびAMと交通情報(⇒「交通情報を受信する」82ページ)は同じ設定になります。

オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に

Auto TA & EQ



警告

運転中に Auto TA & EQ を行わない



自動車が行進中に Auto TA & EQ を行わないでください。Auto TA & EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカーの破損を防止するために

次の状態で Auto TA & EQ を行うと、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合（例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合）
- スピーカーの耐入力を超えるパワーアンプを接続している場合
- ツウイーターを組み合わせる場合は、組み合わせたツウイーターの再生可能周波数帯域を確認してください。カットオフ周波数を設定するときは、ツウイーターの再生可能周波数帯域の下限よりも高い値に設定してください。
- Auto TA では、10 kHz 以上の信号を用いて計測を行います。このため、10 kHz の音域が再生できないツウイーターでは、計測音が出力されないだけでなく、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQ を行う場合は、カットオフ周波数の設定に加えて、再生周波数帯の下限が 10 kHz 以下のツウイーターを使用してください。

オートタイムアライメント & イコライジング (Auto TA & EQ) 機能とは

車内空間には、形状、材質、スピーカーの取付位置やリスニングポジションなど、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて、音響特性が大きく乱れています。乱れた音響特性を補正するために、一般的にはイコライザーなどを使用します。しかし、車内の音響特性を最適にするためには、音響測定器などの道具や、音響調整の熟練した技術が必要です。

この、複雑で困難な音響調整を、専用のマイクだけで自動的に行う機能が、本機の「オートタイムアライメント & イコライジング (Auto TA & EQ)」機能です。

本機の Auto TA & EQ 機能は、車室内を最良の音響空間にするために必要な調整を、すべて自動で行います。そして、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します (Auto EQ)。また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を測定し、音声の到達時間を補正します (Auto TA)。こうして、それぞれの車にとって最良の音響空間を手軽に実現します。

Auto TA & EQ を行う前に必ずしておくこと

Auto TA & EQ を効果的に行うために、準備していただくことがあります。下記を参照して、正しく準備してください。

- ① なるべく静かな場所に車を停車させる。
- ② 車のエンジン、エアコン、ヒーターをオフにする。(エアコンやヒーターのファンの騒音によって、Auto TA & EQ が実行できないことがあります。)
- ③ 携帯電話や車載電話の電源をオフにする。または車外に持ち出す。
- ④ 付属の音響特性測定用マイクを用意する。(それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。)
- ⑤ フロントスピーカーを接続する。(接続していないと、Auto TA & EQ が実行できません。)
- ⑥ フロントスピーカーのミュートを解除する。(ミュートしていると、Auto TA & EQ が実行できません。)
- ⑦ リスニングポジションを設定する。(リスニングポジションを F/R または F/L 以外に設定したときは、Auto TA & EQ を始めると、強制的に F/R に再設定されます。)

- ⑧ 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
- ⑨ ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをオフにする。
- ⑩ ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターの遮断周波数を最も高い値に設定する。
- ⑪ AUX / マイク入力端子から、3.5 mm ステレオミニプラグや音響特性測定用マイクを抜く。(AUX / マイク入力端子に何か接続されている状態では、Auto TA & EQ 設定モードに切り換わりません。)

Auto TA & EQ による調節で変更される設定

Auto TA & EQ を行うと、設定が次のように変更されます。

- 前後左右の音量バランス設定 (フェーダー/バランス) : 工場出荷時の状態に戻る
- イコライザーカーブ : フラットに設定される
- リスニングポジション : F/R に設定される (F/L に設定していた場合は、F/L のまま)
- サブウーファー出力 : オフにしていた場合、オンに設定される

Auto TA & EQ の調節内容について

- 再度 Auto TA & EQ を行うと、前回の調整内容は消去されます。
- Auto TA & EQ 測定時に算出されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間を基に測定されたものです。次のような場合に、実際の距離と異なることがあります。そのままご使用ください。
- 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている。
- パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている。

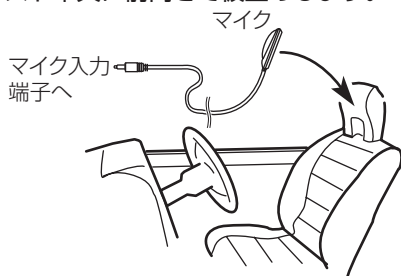
オートタイムアライメント & イコライジングを行う

Auto TA & EQ の設定

はじめに、(➡「オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に」70 ページ)」をよく読んで、オートタイムアライメント & イコライジングの準備を行ってください。

1 音響特性測定用マイクをセットする

市販のテープ・輪ゴムなどで付属の音響特性測定用マイクを座席のヘッドレスト中央に前向きで仮止めします。



メモ

- マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がることがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。
- 音響特性測定用マイクを取り付ける位置により、Auto TA & EQ の調整内容が変化します。お好みにより、助手席にセットすることもできます。

2 SRC/OFF ボタンを長く押し、本機の電源をOFFにする

3 TI/DISP OFF ボタンを長く押す

Auto TA & EQ 設定モードになります。

4 マイクを本機に接続する

付属の音響特性測定用マイクを AUX/マイク入力端子に接続する
(➡「各部のなまえ」9 ページ)

メモ

- Auto TA & EQ を始めてから測定が終了するまでに数分かかります。測定時間は周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。
- AUX/マイク入力端子にマイクがしっかりと挿入されていない状態で Auto TA & EQ を行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入してから、Auto TA & EQ を行ってください。


5 ロータリーコマンダーを押す

Auto TA & EQ を開始します。
もう一度ロータリーコマンダーを押すと、途中解除します。


6 車の外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを閉めます。
計測音(ノイズ)が各スピーカーから出力され、Auto TA & EQ が始まりません。

7 Auto TA & EQ が自動的に終了する

Auto TA & EQ が終わったら、セットした音響特性測定用マイクを取り外し、BAND/  ボタンを押して電源を切ってください。

メモ

- Auto TA & EQ を途中でやめなくなったときは、BAND/  ボタンを押すと、強制的に解除することができます。

ご注意

- マイクはグローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になるおそれがあります。

初期設定メニューの切り換えかた

「時計調整」「外部機器設定」などの機能を使うときは、初期設定メニューで操作します。初期設定メニューは、電源を OFF にした状態で操作します。

画面例



1 SRC/OFFボタンを長く押して、本機の電源をOFFにする

2 ロータリーコマンドを長く押す

初期設定メニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。

- カレンダー設定
(⇒「日付を合わせる」74 ページ)
- ↓
- 時計調整
(⇒「時計を合わせる」74 ページ)
- ↓
- 経過時間アラート設定
(⇒「本機の使用時間を知らせる」74 ページ)
- ↓
- Music ブラウズ設定
(⇒「曲のさがしかたを設定する」75 ページ)
- ↓
- デタッチワーニング設定
(⇒「フロントパネルの外し忘れを警告する」75 ページ)
- ↓
- 外部機器設定 1
(⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」76 ページ)
- ↓

外部機器設定 2
(⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」76 ページ)

↓
ディマー設定
(⇒「夜間のディスプレイの明るさを切り換える」76 ページ)

↓
コントラスト調整
(⇒「ディスプレイのコントラストを調節する」77 ページ)

↓
デジタル ATT 設定
(⇒「音の歪みを補正する」77 ページ)

↓
オーディオリセット
(⇒「オーディオ設定をリセットする」77 ページ)

↓
ミュートモード設定
(⇒「ミュート/アッテネートを切り換える」78 ページ)

↓
内蔵アンプ設定
(⇒「内蔵パワーアンプを ON / OFF する」78 ページ)

↓
デモ設定
(⇒「フィチャーデモを ON / OFF する」79 ページ)

↓
連続スクロール設定
(⇒「スクロールの設定を切り換える」79 ページ)



↓
BT AUDIO 設定
(⇒「BT Audio ソースを ON にする」80 ページ)

↓
ユーザーメモリー消去
(⇒「登録した Bluetooth 機器のデータを消去する」80 ページ)

↓
BT バージョン情報
(⇒「Bluetooth ソフトウェアのバージョンを確認する」81 ページ)

↓
ソフトウェア
(⇒「Bluetooth のソフトウェアを更新する」81 ページ)

メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BAND/  ボタンを押します。(初期設定メニューを解除すると、電源が OFF になります。)
- ひとつ前の画面に戻るには  /DISP ボタンを押します。

日付を合わせる

カレンダー設定

本機のディスプレイに表示する日付を合わせます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、カレンダー設定にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを操作して、日付の設定をする

- 年、月、日を選ぶとき
ロータリーコマンドーを押します。
- 日付を合わせるとき
ロータリーコマンドーを回します。

4 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

時計を合わせる

時計調整

本機のディスプレイに表示する時計の調整ができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、時計調整にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを操作して、時計を調整する

- 時または分を選ぶとき
ロータリーコマンドーを押します。
- 時刻を合わせるとき
ロータリーコマンドーを回します。
分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

4 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

本機の使用時間を知らせる

経過時間アラート設定

車のエンジン、または ACC が ON になってからの時間を計測し、設定した時間ごとに使用時間を表示と音で知らせます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、経過時間アラート設定にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

曲のさがしかたを 設定する

Music ブラウズ設定

USB または SD 機器を使用しているときに、リストから曲をさがすことができます (➡「聞きたい曲をさがす」38 ページ)。この機能では、曲をさがす元になるデータベース・リストを設定します。

- USB memory 1 :
USB ポート 1 に接続した USB1 のアーティスト／アルバム／曲／ジャンルのデータベース・リストを作成します。
- USB memory 2 :
USB ポート 2 に接続した USB2 のアーティスト／アルバム／曲／ジャンルのデータベース・リストを作成します。
- SD card :
SD カードのアーティスト／アルバム／曲／ジャンルのデータベース・リストを作成します。
- OFF :
ファイル／フォルダーのリストを使用します。

📌 ご注意

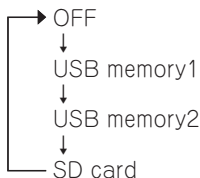
- アーティスト／アルバム／曲／ジャンルのデータベース・リストの作成には、時間がかかります。
- Music ブラウズ設定を ON にしているときは、次の機能が使用できません。
 - フォルダー選択
 - ROOT フォルダー戻し
 - フォルダーリピート
- Music ブラウズ機能は、ID3tag Ver.2 に対応しています。
- Music ブラウズ機能は、USB1 / USB2 / SD のいずれかひとつにしか設定できません。

1 ローターリーコマンドーを操作して、Musicブラウズ設定にする

(➡「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ローターリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 BAND/🔊 ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

フロントパネルの外し忘れを警告する

デタッチワーニング設定

デタッチワーニングは、車を離れるときに、フロントパネルの外し忘れを警告ブザーで知らせる機能です。フロントパネルを取り外すには (➡「フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた」14 ページ)。

📌 デタッチワーニングについて

- イグニッションスイッチを OFF にしたときに、フロントパネルを外し忘れてしまうと、約 4 秒後に警告ブザーが鳴り、フロントパネルの外し忘れを知らせます。

1 ローターリーコマンドーを操作して、デタッチワーニング設定にする

(➡「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

次のページに続く

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
ON

3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

外部機器設定 1/2

本機にポータブル音楽再生機器や VTR、ナビゲーションユニットなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。外部機器の接続には、次の 2 とおりがあります。

- ① 本体前面の AUX/ マイク入力端子 (3.5 mm) に接続する場合
接続した外部機器は、AUX1 ソースとして認識されます。
- ② 本体背面の音声入力に接続する場合
接続する外部機器のスピーカー出力から入力する場合、付属のスピーカー / RCA 変換ケーブルを使用します。
接続する外部機器の RCA 出力から入力する場合、市販の RCA オーディオコードを使用します。接続した外部機器は、AUX2 ソースとして認識されます。

1 ロータリーコマンドを操作して、外部機器設定1 または外部機器設定2にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次のように切り換わります。

ON
↓
OFF

3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります



メモ

- 工場出荷時は、AUX1 が ON に設定されています。AUX1 を使用しない場合は、OFF に設定してください。
- 本体背面の音声入力に接続する場合、本設定の他に、RCA 入力モードの切り換えも行ってください (⇒「RCA 入力モードを切り換える」16 ページ)。
- 音量調節機能がついている外部機器を接続した場合は、音が歪まないように音量を調節してください。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー設定

車のライトを ON にすると、ディスプレイが暗くなるように設定できます。
夜間にディスプレイがまぶしく感じられる場合、ディマー設定を ON にすると便利です。

1 ロータリーコマンドを操作して、ディマー設定にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
ON

3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

ディスプレイのコントラストを調節する

コントラスト調整

1 ローターリーコマンドーを操作して、コントラスト調整にする

(→「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ローターリーコマンドーを押す

3 ローターリーコマンドーを回して、コントラストを調節する

00 ~ 15 の範囲で調節できます。

4 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

音の歪みを補正する

デジタル ATT 設定

イコライザーカーブの調節 (→「イコライザーカーブを大まかに補正する」67 ページ) による音の歪みをなくすことができます。

デジタル ATT (アッテネーター) について

イコライザーカーブの設定でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、デジタル ATT (アッテネーター) の設定を “LOW” に切り換えてください。

1 ローターリーコマンドーを操作して、デジタルATT設定にする

(→「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ローターリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

HIGH
↓
LOW

3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

オーディオ設定をリセットする

オーディオリセット

オーディオの設定を出荷時の状態に戻すことができます。

1 ローターリーコマンドーを操作して、オーディオ リセットにする


(→「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ローターリーコマンドーを押す

確認画面が表示されます。リセットをやめるときは、BAND/  ボタンを押します。

次のページに続く

3 ロータリーコマンドーを押す

再度、確認画面が表示されます。キャンセルする場合はロータリーコマンドーを押します。リセットをやめるときは、BAND/  ボタンを押します。

4 ロータリーコマンドーを回して、“よろしいですか？”を表示する

5 ロータリーコマンドーを押す

オーディオ設定がリセットされます。

6 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

ミュート／アッテネートを切り換える

ミュートモード設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートにするかアッテネートにするかを選ぶことができます。

ミュート／アッテネート機能について

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っている間だけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

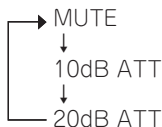
- ・ MUTE：音量 “0”
 - ・ 10dB ATT：もとの音量の約 1/3
 - ・ 20dB ATT：もとの音量の約 1/10
- ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ロータリーコマンドーを操作して、ミュートモード設定にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

内蔵パワーアンプを ON / OFF する

内蔵アンプ設定

内蔵パワーアンプの動作を ON / OFF できます。

内蔵パワーアンプ ON / OFF 機能について

本機を 3-way ネットワークモードで使用するときなど、内蔵アンプを使用しないことがあります。そのような場合に、内蔵パワーアンプの動作を OFF にすると、消費電力を抑えることができ、音質向上に役立ちます。外部アンプだけでシステムを構築している場合は、本機のパワーアンプを OFF にしてください。

1 ロータリーコマンドーを操作して、内蔵アンプ設定にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。



3 BAND/ 電源ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

フィーチャーデモを ON / OFF する

デモ設定

？ フィーチャーデモとは

- フィーチャーデモは、本機の電源が OFF のときや、約 30 秒間何も操作しないときに、各ソースや本機の機能（ファンクションやエンタテインメントなど）の画面を表示して紹介する機能です。

1 ロータリーコマンドーを操作して、デモ設定にする

(→「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す


ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON
↓
OFF

3 BAND/ 電源ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

✍ 知っていると便利

- フィーチャーデモは、/DISP ボタンを長く押すことでも ON / OFF できます。

スクロールの設定を切り換える

連続スクロール設定

「CD TEXT」や「CD-ROM」など、文字情報が記録されたディスクでは、連続スクロール設定を ON にすると、表示しきれないタイトルなどを連続してスクロールするようになります。スクロールを一度だけにしたいときは、この機能を OFF にします。

1 ロータリーコマンドーを操作して、連続スクロール設定にする

(→「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF
↓
ON

3 BAND/ 電源ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

BT Audio ソースを ON にする

BT AUDIO 設定

Bluetooth 対応機器を接続して BT Audio ソースとして使用する場合、設定を ON にします。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BT AUDIO設定にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次のように切り換わります。

ON
↓
OFF

3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

登録した Bluetooth 機器のデータを消去する

ユーザーメモリー消去

本機に登録した Bluetooth 対応機器から転送されたデータなどを削除することができます。この機能では、以下の情報が消去されます。

- 転送された電話帳データ
- 履歴データ（不在着信履歴、発信履歴、着信履歴）
- 編集したパスコード

1 ロータリーコマンドーを操作して、ユーザーメモリー消去にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

確認画面が表示されます。

消去をやめる場合は、ロータリーコマンドーを回してキャンセルにします。

3 ロータリーコマンドーを押す

登録した Bluetooth 機器の情報が消去されます。

消去が完了すると、「消去しました」と表示されます。

メモ

- Bluetooth 機器の情報が消去できない場合は、「消去できません」と表示されます。

4 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

Bluetoothソフトウェアのバージョンを確認する

BT バージョン情報

本機の Bluetooth ソフトウェアのバージョンを表示して、確認することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BT バージョン情報にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

本機の Bluetooth ソフトウェアのバージョンが表示されます。

2 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

Bluetoothのソフトウェアを更新する

ソフトウェア

本機の Bluetooth ソフトウェアを更新することができます。

Bluetooth のソフトウェアについての情報や更新についての詳細は、パイオニアのホームページをご覧ください。

ご注意

- ソフトウェアを更新する前に、Bluetooth 機器との接続を解除してください。更新中は、本機の電源を OFF にしないでください。

1 ロータリーコマンドーを操作して、ソフトウェアにする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」73 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、更新を開始する

更新が完了すると、「終了しました」と表示されます。

3 BAND/ ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、本機の電源が OFF になります。

瞬時に音を消す

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音を消せます。

1 リモコンのMUTEボタンを押す

瞬時に音が消えます。

もう一度 MUTE ボタンを押すと、解除されます。

ボタンの色とディスプレイの表示を消す

本機のボタンの色や、ディスプレイの表示を消すことができます。

1 TI/DISP OFFボタンを長く押す

ボタンの色とディスプレイの表示が消えます。

もう一度 TI/DISP OFF ボタンを長く押すと、解除されます。

メモ

- フィーチャーデモが ON のときは、ボタンの色とディスプレイの表示は消すことができません。
- 他のボタンを操作した場合などは、一時的に解除されます。

交通情報を受信する

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源 OFF のときでも、どのソースからでも操作できます。

1 TI/DISP OFF ボタンを押す

交通情報を受信します。

もう一度 TI/DISP OFF ボタンを押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 レバーを回して、周波数を選ぶ

レバーを回すごとに、次のように切り換わります。

1 629 ↔ 1 620 (kHz)

知っている则便利

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

エンタテインメントメニューの切り換えかた

背景画面を設定する

背景画面設定

ソース ON 中の背景画面や、ソース OFF 中の時計表示などの設定は、エンタテインメントメニューで操作します。

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をさまざまなエンタテインメント表示から選べます。

画面例



1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドーを回して ENTERTAINMENT を選び、ロータリーコマンドーを押す

エンタテインメントメニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。

背景画面設定
↓
時計表示

1 ロータリーコマンドーを操作して、背景画面設定にする

(→「エンタテインメントメニューの切り換えかた」このページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。

→ BGV
↓
GENRE
↓
BGP-1
↓
BGP-2
↓
BGP-3
↓
BGP-4
↓
SPECTRUM ANALYZER-1
↓
SPECTRUM ANALYZER-2
↓
LEVEL INDICATOR
↓
LEVEL METER
↓
SIMPLE
↓
→ CALENDAR

便利な機能

📌 ご注意

- USB ソース選択中で「NO DEVICE」表示のときは、メインメニューを表示することができません。
- 10℃以下の温度を検知すると、背景画面設定は表示されません。温度が上がるまでお待ちください。

📝 メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/🔊 ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

次のページに続く

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだエンタテインメント表示が設定され、エンタテインメントメニューが解除されます。

？ BGV とは

- BGV は、「Background Visual (バックグラウンドビジュアル)」の略です。

？ GENRE とは

- GENRE は、iTunes でエンコードしたファイルを再生しているときに、再生中の曲のジャンルに応じて、背景の画像を切り換える機能です。対応しているジャンルは次のとおりです。
 - ・ Rock (Rock, Alternative, ロック、オルタナティブなど)
 - ・ Pop (Pop, J-Pop, ポップなど)
 - ・ Jazz (Jazz, ジャズなど)
 - ・ Dance (Dance, ダンス, Electronic, Electronica/Dance など)
 - ・ R&B (R&B, Soul, ソウルなど)
 - ・ Hip-Hop (Hip-Hop, Rap, ヒップホップ, ラップ, Hip Hop など)
- ただし、iTunes でエンコードした WAV ファイルを再生している場合は、GENRE は正しく動作しません。
- オーディオファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、GENRE が正しく動作しないことがあります。

？ BGP とは

- BGP は、「Background Picture (バックグラウンドピクチャー)」の略です。

メモ

- 日付を合わせるには、(→「日付を合わせる」74 ページ)。

時計表示を切り換える

時計表示

本機の電源が OFF のときに、ディスプレイに時計を表示することができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、時計表示にする

(→「エンタテインメントメニューの切り換えかた」83 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



メモ

- 時計を合わせるには (→「時計を合わせる」74 ページ)。
- 12 時間表示で表示されます。
- 経過時間は最大 9 時間 59 分まで計測され、越えたときは 0 時間 0 分に戻ります。

イルミネーションメニューの切り換えかた

本機に設定したい色を、イルミネーションメニューで選びます。

画面例



1 ロータリーコマンドーを押す

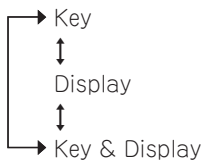
メインメニューが表示されます。

2 ロータリーコマンドーを回して ILLUMINATION を選び、ロータリーコマンドーを押す

イルミネーションメニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。



ご注意

- USB ソース選択中で「NO DEVICE」表示のときは、メインメニューを表示することができません。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

ボタンの色を選ぶ

Key

本機のボタンに設定したい色を選びます。

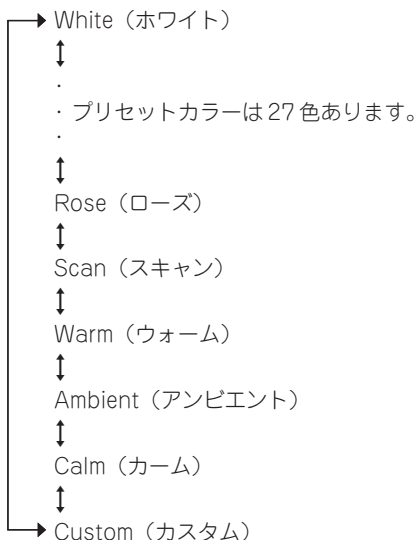
1 ロータリーコマンドを操作して、Key にする

(⇒「イルミネーションメニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次のように切り換わります。



メモ

- プリセットカラーを選択時にロータリーコマンドを長く押すと、その色を調節することができます。

4 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- Scan (スキャン) は、すべてのプリセットカラーを自動で切り換えます。
- Warm (ウォーム) は、プリセットカラーの中から暖色系の色が表示され、自動で切り換わります。
- Ambient (アンビエント) は、プリセットカラーの中から穏やかな色が表示され、自動で切り換わります。
- Calm (カーム) は、プリセットカラーの中から寒色系の色が表示され、自動で切り換わります。
- Custom (カスタム) は、調節したボタンとディスプレイの色で表示します (⇒「ボタンとディスプレイの色を調節する」86 ページ)。

ディスプレイの色を選ぶ

Display

本機のディスプレイに設定したい色を選びます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、Displayにする

(→「イルミネーションメニューの切り換えかた」84ページ)

以降の操作は、「ボタンの色を選ぶ」85ページと同じです。

ボタンとディスプレイの色を選ぶ

Key & Display

本機のボタンとディスプレイに設定したい色を選びます。

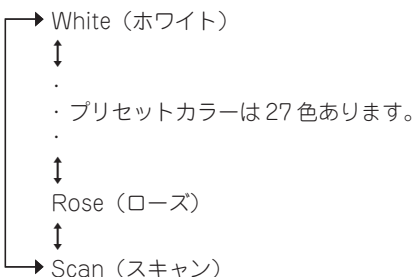
1 ロータリーコマンドーを操作して、Key & Displayにする

(→「イルミネーションメニューの切り換えかた」84ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。



4 BAND/📄 ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- Scan (スキャン) は、すべてのプリセットカラーを自動で切り換えます。

ボタンとディスプレイの色を調節する

本機のボタンとディスプレイに設定する色を、お好みに合わせて調節します。

1 ロータリーコマンドーを操作して、KeyまたはDisplayにする

(→「イルミネーションメニューの切り換えかた」84ページ)

メモ

- Key & Display を選んでいるときは、ボタンとディスプレイの色の調節はできません。

2 ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回して、プリセットカラーかCustomを選ぶ

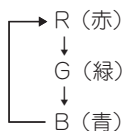
メモ

- Scan、Warm、Ambient、Calmのいずれかを選んでいるときは、ボタンとディスプレイの色の調節はできません。

4 ロータリーコマンドーを長く押して、色の調節を始める

5 ロータリーコマンドーを押して、R・G・Bから色を選ぶ

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。



6 ロータリーコマンドーを回して、明るさを調節する

00～60の範囲で調節できます。

メモ

- 他の色も同じ操作で調節できます。
 - R（赤）とG（緑）およびB（青）すべてを20以下のレベルにすることはできません。
- また、レベルを小さくした状態でディマー設定をONにすると、ディスプレイが見つらなくなる場合がありますのでご注意ください。

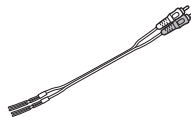
7 BAND/ ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

●接続・取り付け上のご注意

- 接続する前に、必ず車のバッテリーの⊖端子を外してください。
- 車への取り付けは、必ず本書と、別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や、指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。
- 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

スピーカー／RCA 変換ケーブル × 1



●マイク関係

ハンズフリー用マイク × 1



マイククリップ × 1



両面テープ (15 mm × 12 mm) × 1



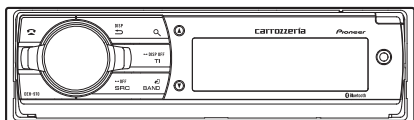
クランプ × 5



接続・取り付け部品を確認する

●本体関係

本体 × 1



トラスネジ (5 mm × 8 mm) × 4



皿ネジ (5 mm × 9 mm) × 4



●コード関係

電源コード × 1



USB 接続ケーブル × 2

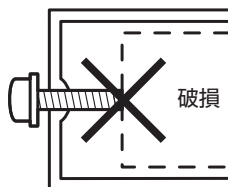


取り付けの前に知ってほしいこと

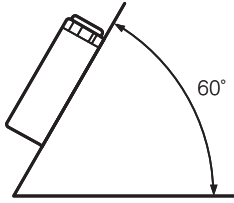
●取り付け上のご注意

- 必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。

ケース



- 本機の性能を十分に発揮するために、水平に対して60度以内の角度で取り付けてください。



- 本機のアンプにはBPTLという回路を使用しています。スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの(-)リード線を、共通にして接続したりしないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーの発火・発煙・破損の原因となります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となるおそれがあります。
- ガラスアンテナ車は、アンテナプースターの電源を、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）に接続してください。接続を忘れるとラジオが受信できません。

アンテナプースターの電源の位置は、車種によって異なります。（ラジオがONにならないと、プースターがONにならない車もあります。）詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

●取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。
- 本体底面に、モード切り換えスイッチがあります。取り付け前に設定されることをおすすめします。（⇒「DSPモードを切り換える」16ページ、「RCA入力モードを切り換える」16ページ）

取付キットを別売しています

- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意していますので、販売店にご相談ください。
- ダッシュボード下へ取り付ける場合は、Dサイズ用汎用取付ケースやアンダーダッシュ用取付キットをご使用ください。

●接続のポイント

ノイズ防止のために

- アンテナコードは、スピーカーコードおよび電源リード線からできるだけ離して配置してください。

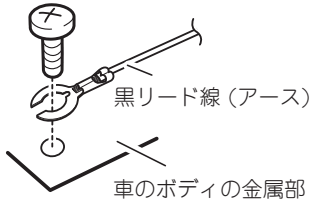
電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなる場合は、バッテリーから直接電源をとることをおすすめします。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

接続の前に知ってほしいこと

●接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



- 本機は、エンジンスイッチにACCがない車では使用できません。必ず、エンジンスイッチにACCがある車でご使用ください。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には、接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗してしまいます。

●コネクター着脱のポイント

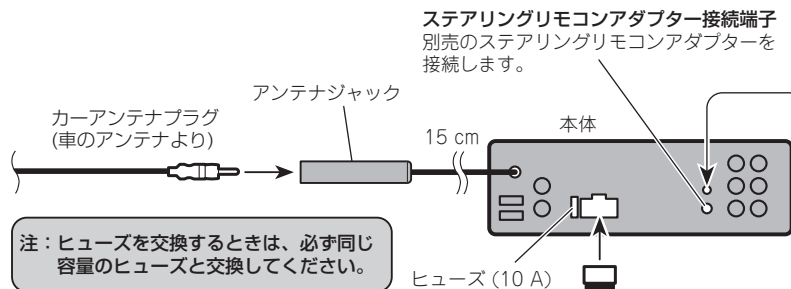
- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。
- コネクターを外すときは、コネクター部分を持って引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。

●バッテリー交換時のご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、カレンダー設定、時計などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリーは（⇒「放送局を1局ずつ登録する」32ページ）、カレンダー設定は（⇒「日付を合わせる」74ページ）、時計調整は（⇒「時計を合わせる」74ページ）を参照して、再設定してください。

電源コードの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



ミュート

パイオニア製のナビゲーションシステムなどの別売製品と組み合わせるときに、本機の音量をコントロールするために使用します。(別売製品からのコントロール信号が入力されると、本機の音量が自動的に変化します。) 組み合わせた別売製品に黄/黒リード線 (ミュート用またはセルラーミュート用) がある場合は、そこに接続してください。それ以外は何も接続しないでください。

アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。) 下記車両については未接続状態の場合ラジオが受信できない場合がありますので、必ず接続してください。

- オートアンテナ車の場合：
車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
※アンテナを下げる場合は、ソースをOFFにしてください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車などの場合：
車側のアンテナプースターの電源入力端子に接続してください。

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。

イルミ電源

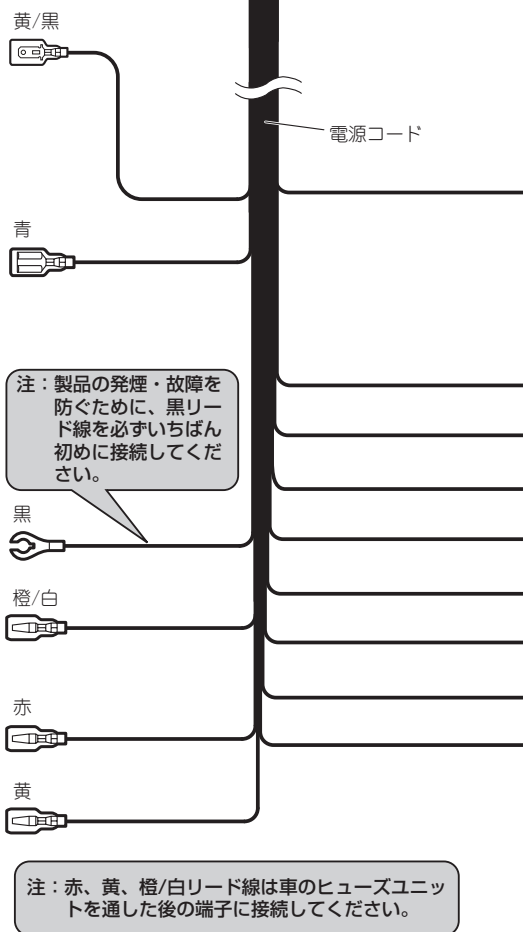
車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路 (時計の照明回路やスモールランプ回路など) に接続してください。

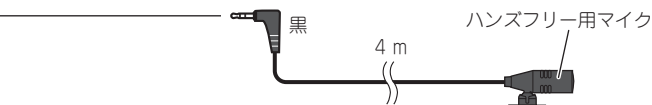
アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCの位置にしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。





システムリモートコントロール

外部アンプのON/OFFをコントロールするために使用します。

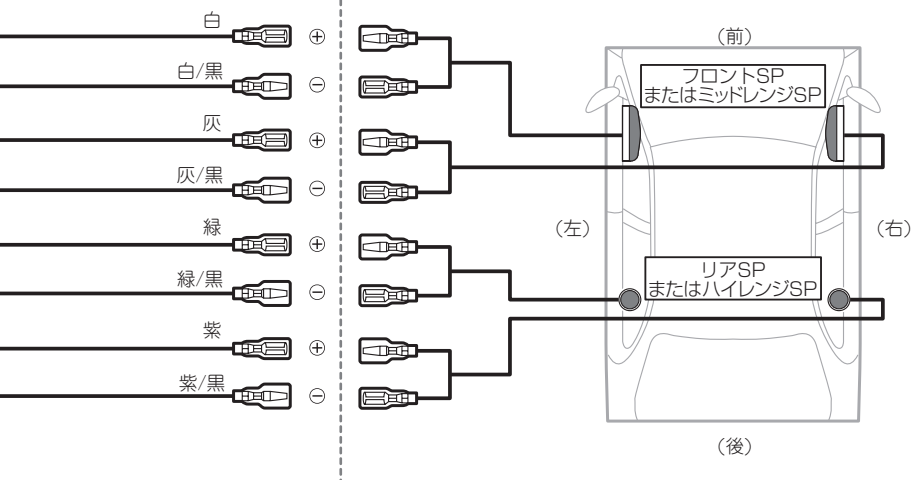
(本機がONになるとコントロール信号が出力されます。)

外部アンプのシステムリモートコントロールに接続してください。

(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。)



スピーカーリード線の接続については、(⇒「スピーカーリード線の接続①～④」92～99ページ)をご覧ください。

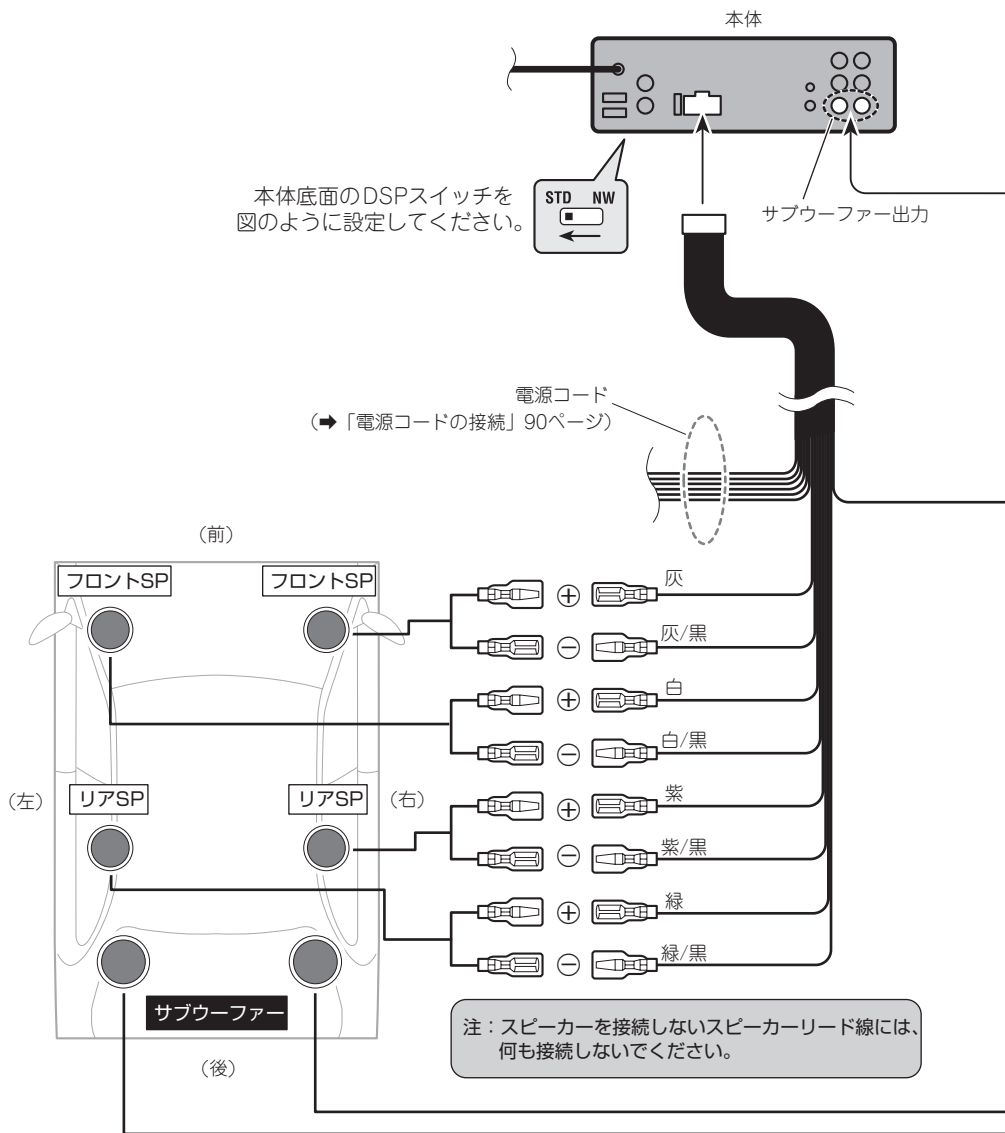


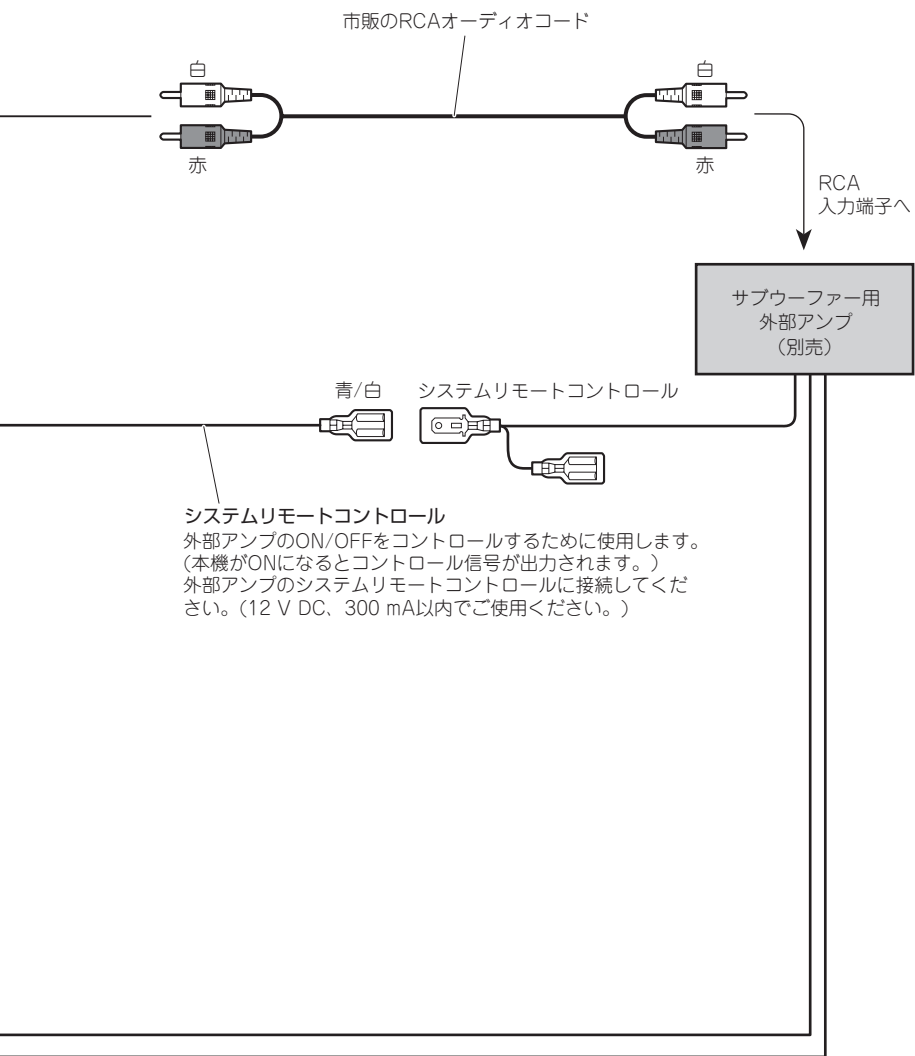
注：スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。

スピーカーリード線の接続 ①

(STDモードで内蔵アンプを使用する場合)

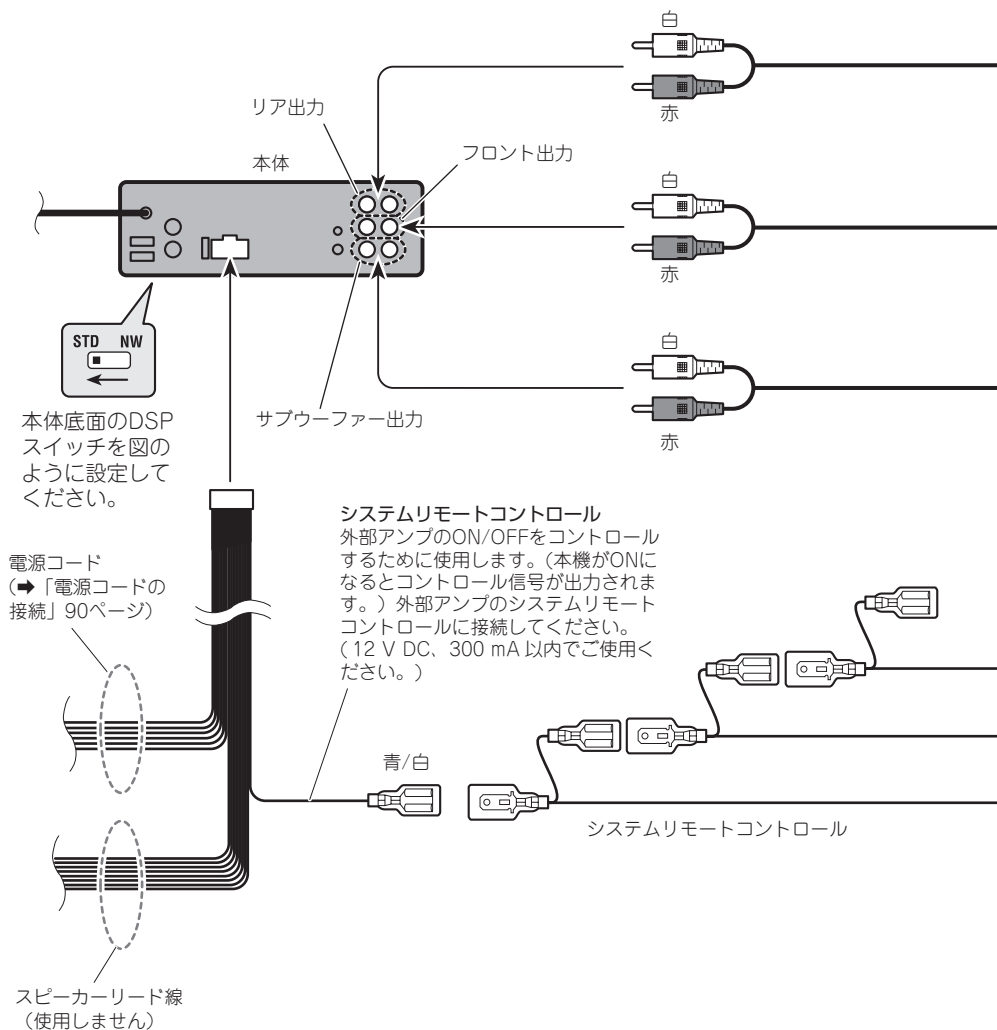
詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



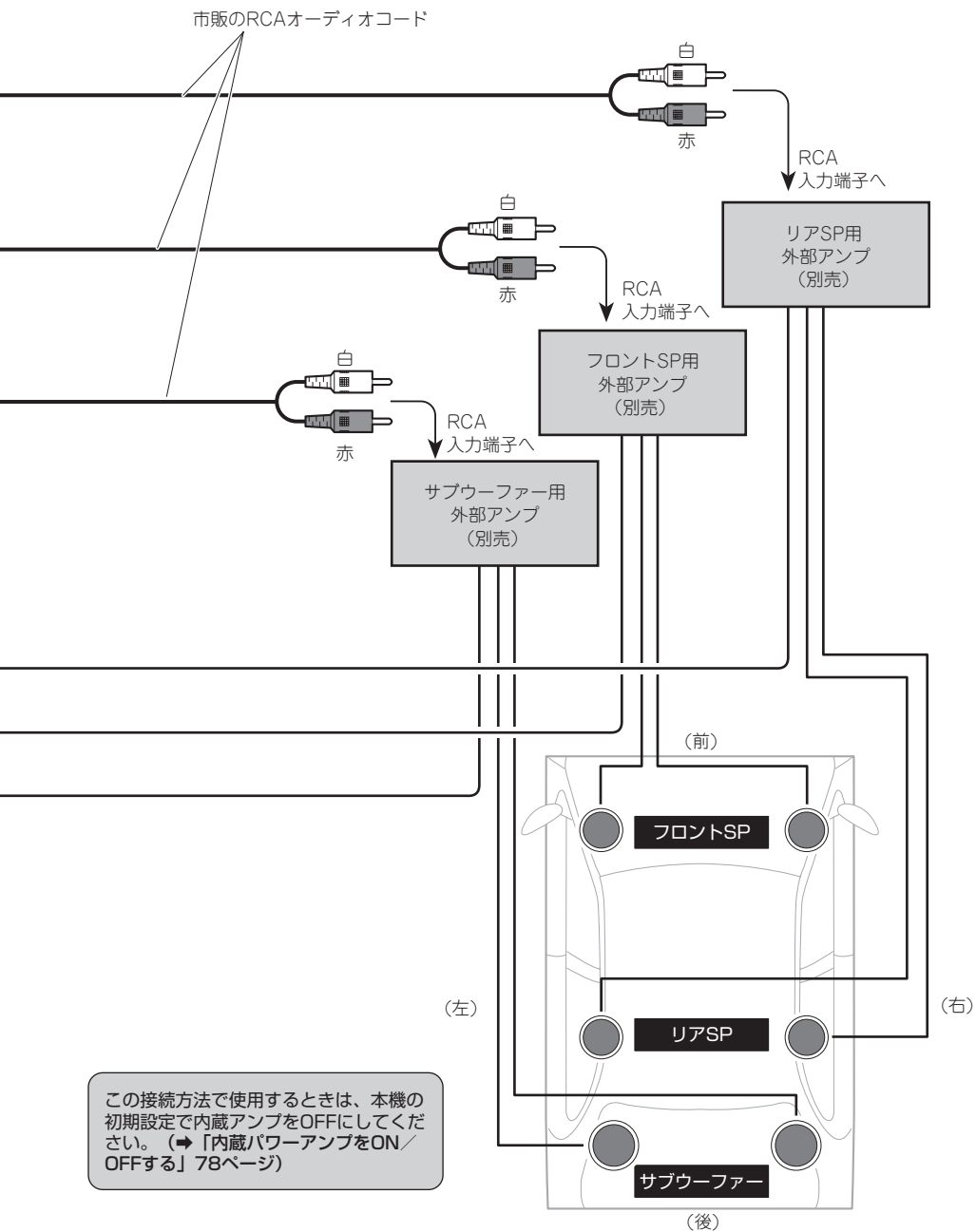


スピーカーリード線の接続 ② (STDモードで内蔵アンプを使用しない場合)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



注：スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。



この接続方法で使用するときには、本機の初期設定で内蔵アンプをOFFにしてください。(⇒「内蔵パワーアンプをON/OFFする」78ページ)

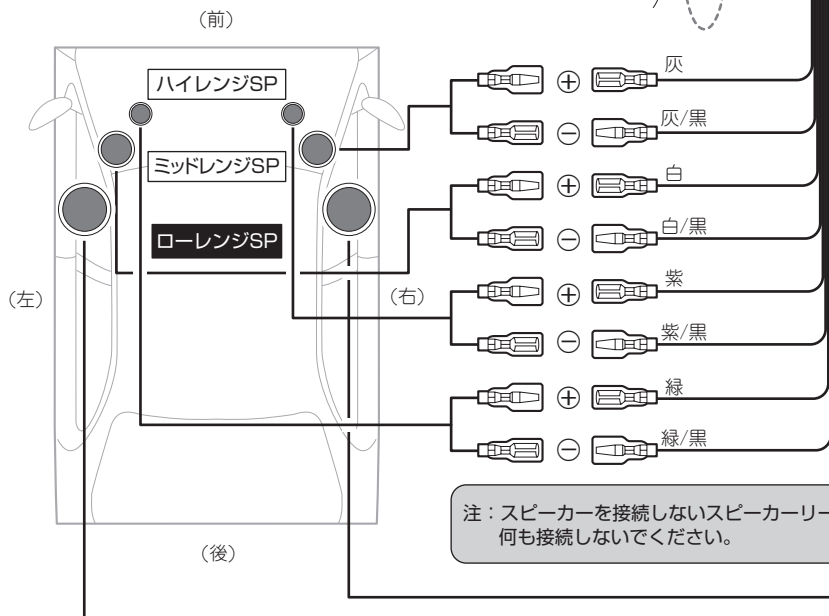
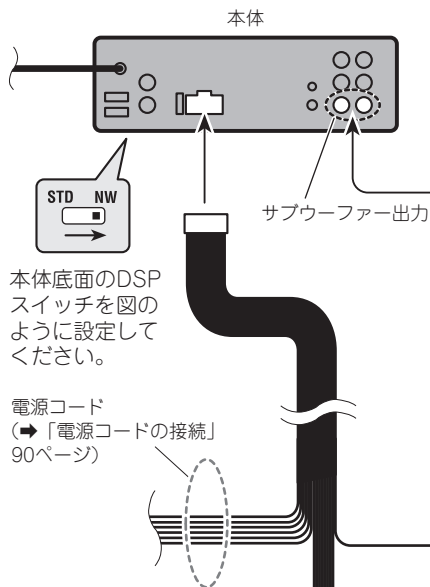
接続・取り付けと動作確認

スピーカーリード線の接続 ③ (NWモードで内蔵アンプを使用する場合)

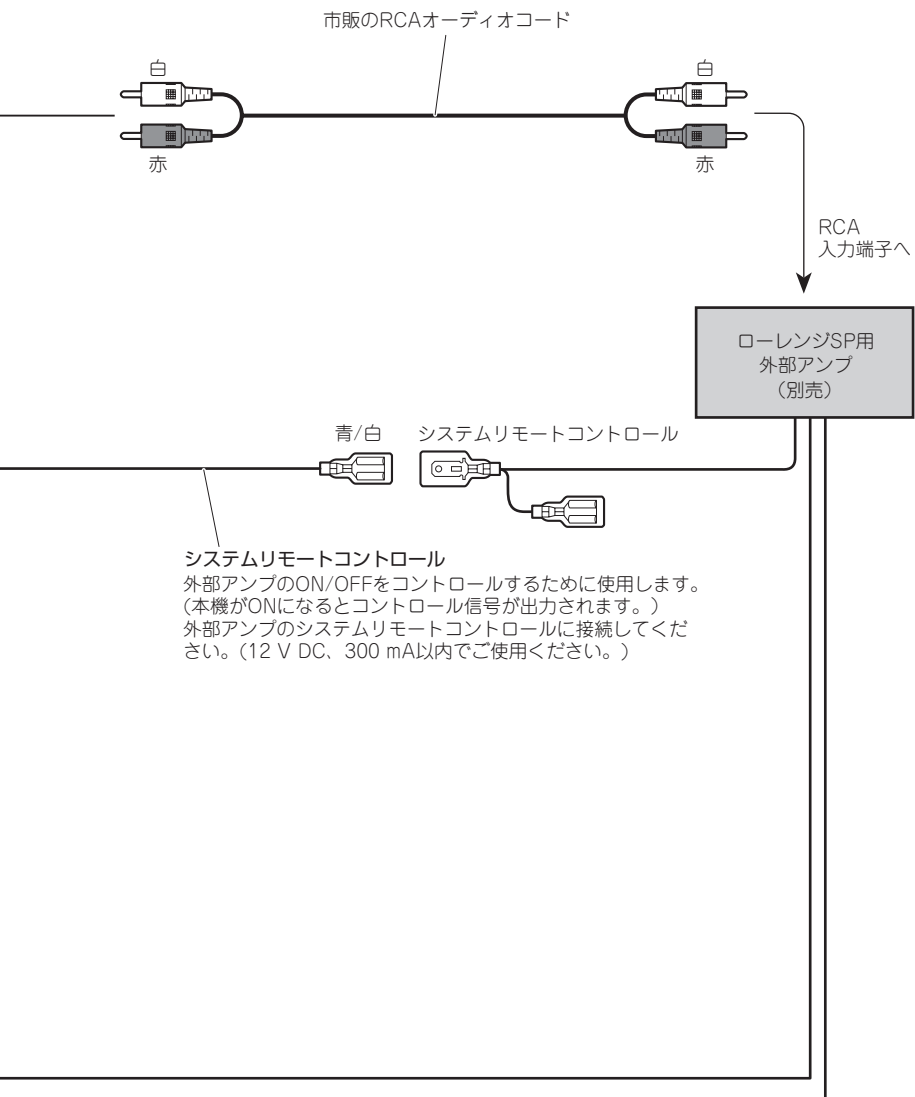
詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

注：トウイーターを組み合わせて使用する場合は、組み合わせたトウイーターの再生可能周波数帯域を確認してください。カットオフ周波数を設定するときは、トウイーターの再生可能周波数帯域の下限よりも高い値に設定してください。

注：Auto TAでは、10 kHz以上の信号を用いて計測を行います。このため、10 kHzの音域が再生できないトウイーターでは、計測音が出力されません。Auto TA & EQを行う場合は、カットオフ周波数の設定に加えて、再生可能周波数帯の下限が10 kHz以下のトウイーターを使用してください。

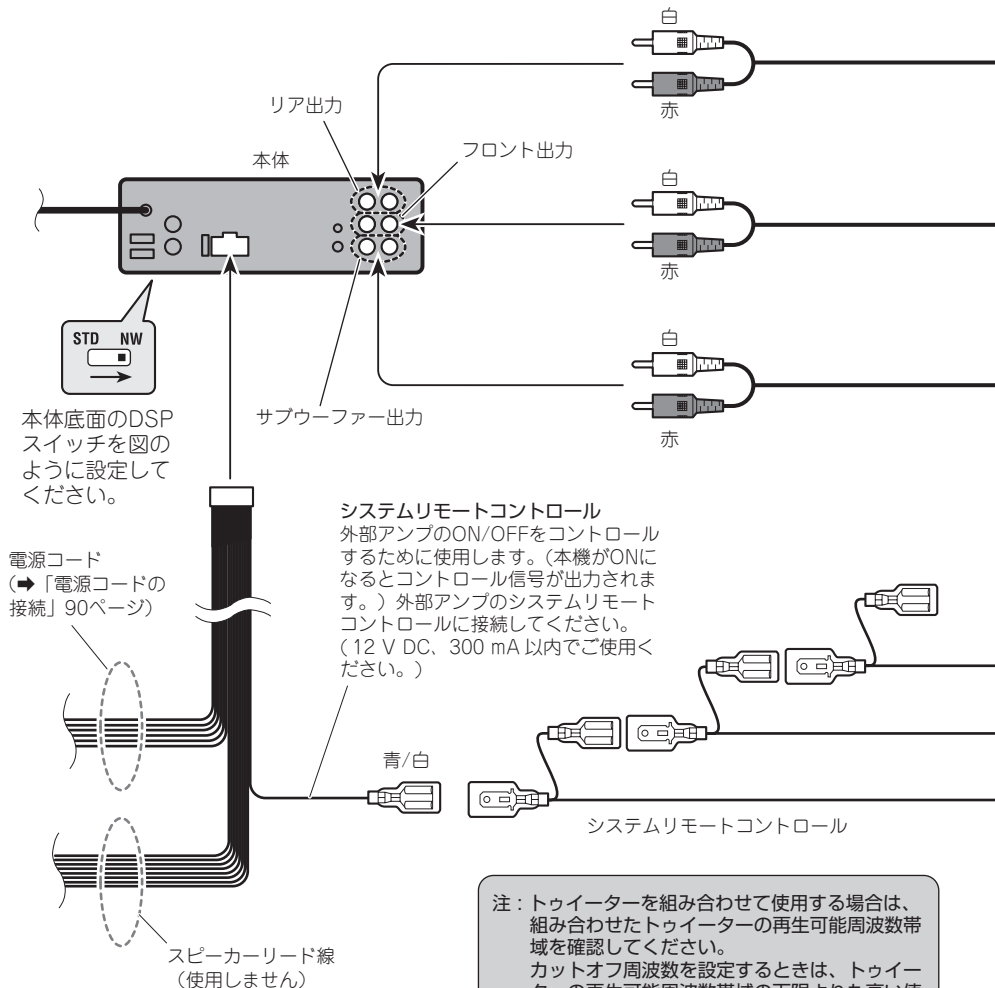


注：スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。



スピーカーリード線の接続 ④ (NWモードで内蔵アンプを使用しない場合)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

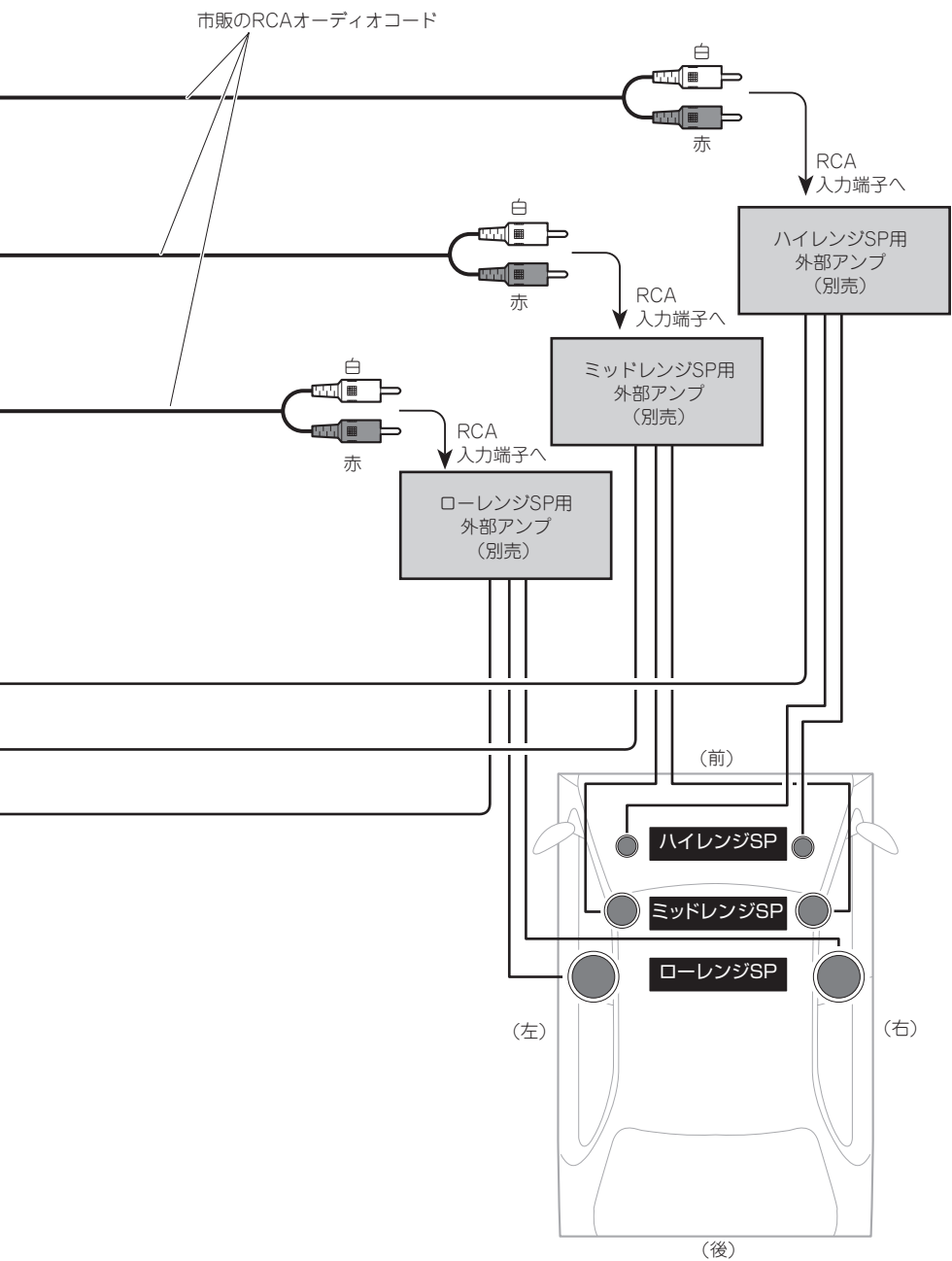


注：スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。

この接続方法で使用するときは、本機の初期設定で内蔵アンプをOFFにしてください。(「内蔵パワーアンプをON/OFFする」78ページ)

注：トゥイーターを組み合わせる場合は、組み合わせたトゥイーターの再生可能周波数帯域を確認してください。カットオフ周波数を設定するときは、トゥイーターの再生可能周波数帯域の下限よりも高い値に設定してください。

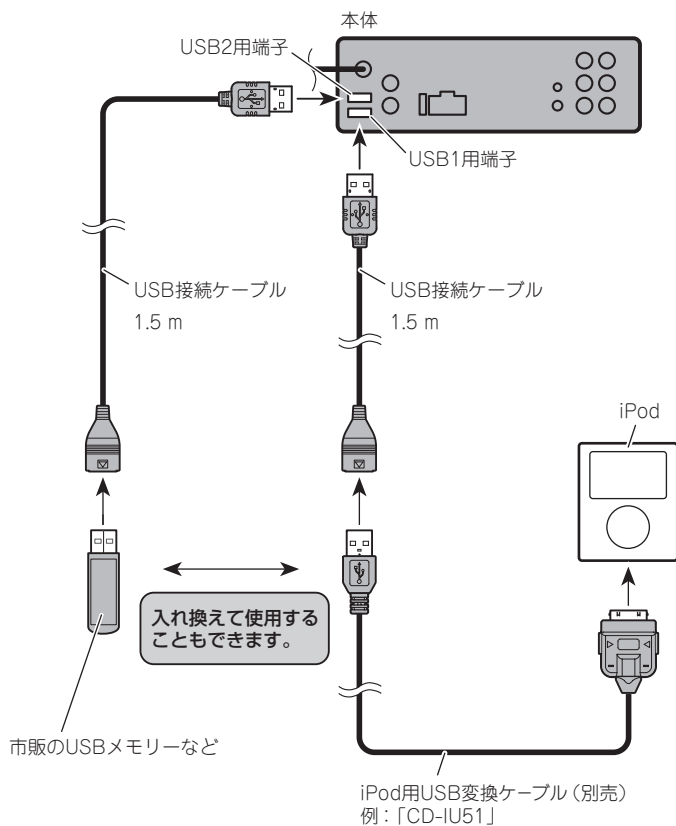
注：Auto TAでは、10 kHz 以上の信号を用いて計測を行います。このため、10 kHz の音域が再生できないトゥイーターでは、計測音出力されただけでなく、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQを行う場合は、カットオフ周波数の設定に加えて、再生可能周波数帯の下限が10 kHz 以下のトゥイーターを使用してください。



接続・取り付けと動作確認

本機と iPod/USB 機器の接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



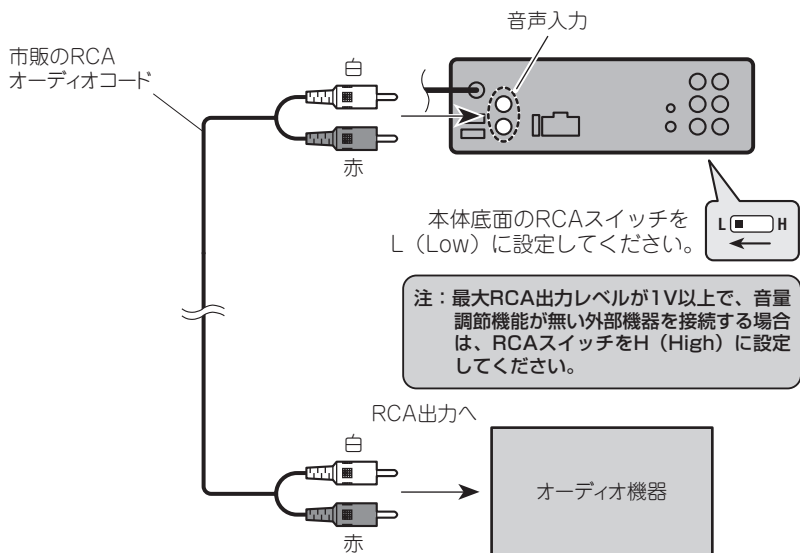
接続・取り付けと動作確認

本機とオーディオ機器の接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

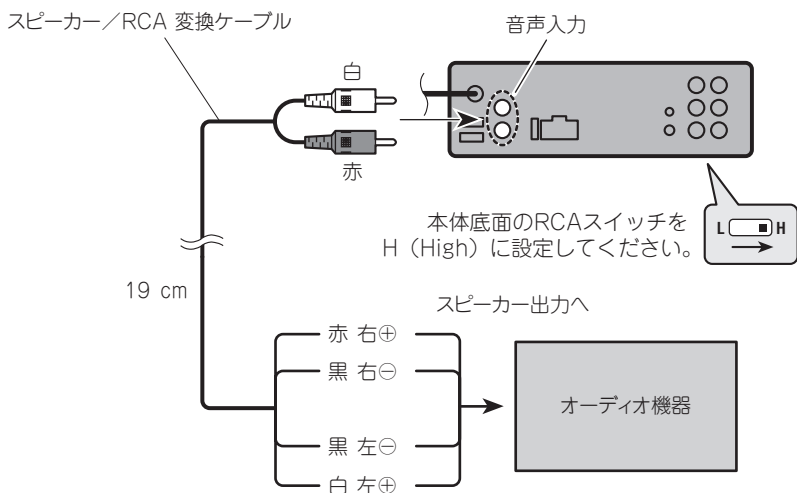
接続する機器の RCA 出力から入力する場合

接続する機器の RCA 出力から入力する場合は、以下のように接続してください。



接続する機器のスピーカー出力から入力する場合

接続する機器のスピーカー出力から入力する場合は、以下のように接続してください。



接続・取り付けと動作確認

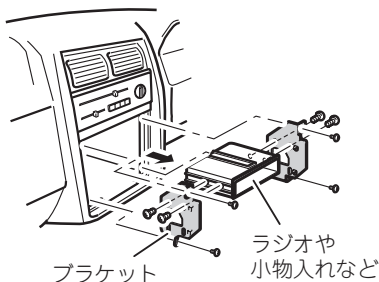
本体を取り付ける

取り付け例（トヨタ車、日産車への取り付け）です。

1 車のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。

そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



ご注意

- 取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

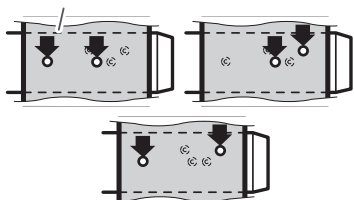
2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。

ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

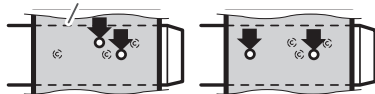
■トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



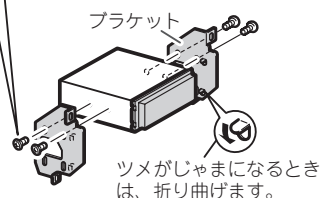
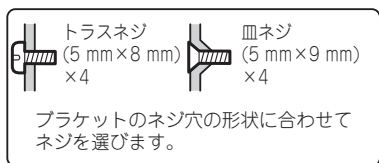
■日産車の場合

日産車ブラケット



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ留めして、元通り車に取り付けます。



フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

フロントパネルを取り外す（デタッチ）ことができます。操作方法は（→「フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた」14ページ）。

動作を確認する

接続・取り付けが終わったら、次の操作を行って、本機が正常に動作することを確認してください。

1 接続・取り付けをもう一度確認する



確認

- 接続・取り付けに誤りがないか、各コネクタは確実に接続されているかもう一度、目で見えて確認してください。

2 リセットボタンを押す

(⇒「本機のリセットについて」15 ページ)

3 車のエンジンをかける

4 本機の動作を確認する

確認後にセットアップメニューが自動で起動しますので、設定を行ってください (⇒「初めて本体を使用する際の設定」13 ページ)。

ハンズフリー用マイクの取り付け



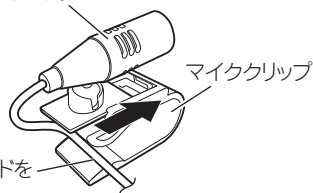
取り付け上のご注意

- ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー(反響音)を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

サンバイザーにはさんで取り付ける場合

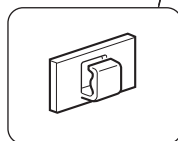
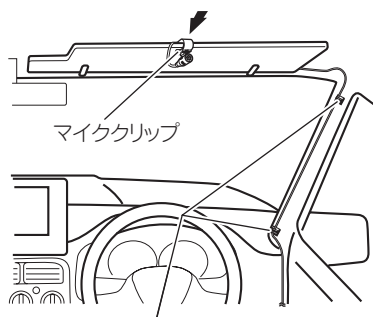
1 マイククリップにマイクを取り付ける

ハンズフリー用マイク



溝にマイクコードを埋め込みます。

2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

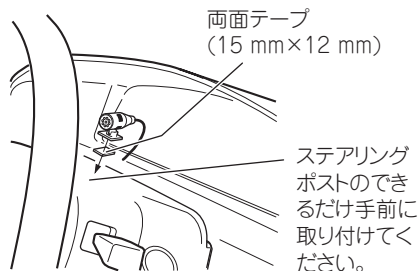


クランパー×5
クランパーで要所を固定しながら、マイクコードを引き回します。

接続・取り付けと動作確認

ステアリングポストに取り付ける場合

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける



クランパー×5
クランパーで要所
を固定しながら、
運転操作に支障
がないようにマイ
クコードを引き回
します。



接続・取り付けと動作確認

マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、下図のように矢印の方向に動かして調節します。



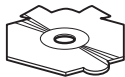
CD の正しい使いかた

●使用できる CD について

- 次のマークが付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。コピーコントロール CD などの CD 規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのある CD は使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



- 音楽用 CD レコーダーまたはパソコンで記録した CD-R / CD-RW ディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R / CD-RW ディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R / CD-RW ディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）
- ファイナライズされていない CD-R / CD-RW ディスクには対応していません。
- CD-R / CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

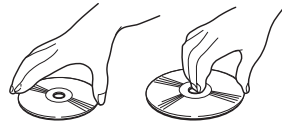
- レーベル面に印刷ができるディスクを使用するときは、ディスクの説明書や注意書きを確認してください。ディスクによっては、挿入または取り出しができないものがあります。そのようなディスクを使用すると、本機の故障の原因になります。

●「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面に DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD 面ではないオーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面にキズが付く場合があります。キズが付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

●取り扱い上のご注意

- CD は、信号記録面（虹色に光っている面）を触らないように持ってください。



- CD にキズを付けないでください。
- CD にシールなどを貼らないでください。

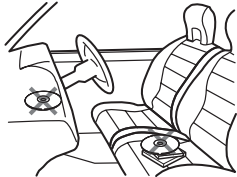


- ディスクには、市販のラベルなどを貼りつけないでください。
 - ディスクにそりが生じて、再生できなくなる原因になります。
 - 再生中にラベルがはがれると、ディスクが取り出せなくなり、本機の故障の原因になります。

次のページに続く

●保管上のご注意

- ・直射日光の当たるところや高温になるところは、CD を保管しないでください。



- ・CD がぞらないように、必ずケースに入れて保管してください。

●お手入れについて

- ・CD が汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- ・アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



●CD 再生の環境について

- ・走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- ・寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのを待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。



メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルについて

●WMA とは？

- ・「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードできます。



ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

●再生できる WMA ファイルについて



ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けしないでください。

- ・再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32 kHz ~ 48 kHz です。
- ・WMA ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) で 48 kbps ~ 320 kbps、VBR (可変ビットレート) で 48 kbps ~ 384 kbps の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをおすすめします。
- ・デジタル著作権管理 (DRM) で保護されたファイルは、再生がスキップされます。「TRK SKIPPED」と表示されます。
- ・ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権管理 (DRM) で保護されている場合、そのディスクは再生できません。「PROTECT」と表示されます。

- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - － Windows Media Audio Professional (5.1 ch)
 - － Windows Media Audio Lossless (可逆圧縮)
 - － Windows Media Audio Voice

●MP3 とは？

- 「MPEG Audio Layer-3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

●再生できる MP3 ファイルについて

ご注意

- MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けしないでください。
- ID3 tag の Ver. 1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4 のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.X と Ver. 2.X が混在している場合は、Ver. 2.X が優先されます。
- サンプリング周波数が 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz の MP3 ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。なお、再生可能なサンプリング周波数は、8 kHz ~ 48 kHz です。
- MP3 ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) では 8 kbps ~ 320 kbps の MP3 ファイルの再生に対応しています。また、本機は VBR (可変ビットレート) で記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps 以上のビットレートで記録することをおすすめします。

●AAC とは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2、MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

●再生できる AAC ファイルについて

ご注意

- AAC ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.m4a) を付けてください。
- 本機は、iTunes を使用してエンコードされた AAC ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、iTunes で作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルを AAC ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AAC ファイル以外には拡張子 (.m4a) を付けしないでください。
- 本機で画像データを含む AAC ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- AAC ファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生可能な AAC ファイルのサンプリング周波数は、11.025 kHz ~ 48 kHz です。
- AAC ファイルは一般的に、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16 kbps ~ 320 kbps のステレオビットレートで記録された AAC ファイルの再生に対応しています。また、本機は VBR (可変ビットレート) で記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いステレオビットレートで記録することをおすすめします。
- iTunes Store で購入された楽曲 (.m4p) は、CD-R / CD-RW または USB 機器に記録して再生できません。
- 本機は、次の形式には対応していません。
 - － Apple ロスレス・エンコーダ

●WAV とは？

- 「Waveform」の略で、Windows® での標準音声フォーマットです。

●再生できる WAV ファイルについて

ご注意

- WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。

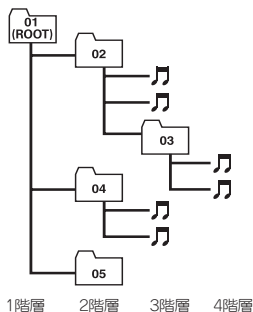
次のページに続く

- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子 (.wav) を付けないでください。
- 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM 形式では 16 kHz ~ 48 kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 kHz ~ 44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- WAV ファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM 形式で 8 bit または 16 bit、MS ADPCM 形式で 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをおすすめします。

- マルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- m3u のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を指定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがない CD を、WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルとして CD-R / CD-RW / CD-ROM に記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。
- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R / CD-RW / CD-EXTRA / MIXED-MODE CD ディスクに WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えて再生できます (▶「CD のふだんの操作」20 ページ)。この場合、再生は先頭の曲から始まります。
- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- 8 階層までの WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスクの作成時には、階層を 2 つ以下にすることをおすすめします。
- 再生できるファイルの合計は、最大 999 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 99 フォルダーです。

ディスク内のフォルダーについて

- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを収録した CD-R / CD-RW / CD-ROM のフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルが記録された CD-R / CD-RW / CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1 / レベル 2 / 拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。

USB 機器について

- USB ポータブルオーディオプレーヤーや USB Mass Storage Class 対応の USB メモリーに収録された WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを再生できます。



ご注意

- USB 機器を本機に接続する際は、付属の USB 接続ケーブルを使用してください。付属の USB 接続ケーブル以外は、使用しないでください。
- 接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- パーティションを作った USB メモリーは、再生可能な最初のパーティションだけを再生します。
- 使用する USB 機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- USB ハブを使用している接続には対応していません。
- USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外（USB 扇風機など）は接続しないでください。
- USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。
- 本機との組み合わせで使用時に携帯デジタルプレーヤーや USB メモリーのデータなどが消失した場合でも、その補償については責任を負いかねますのでご了承ください。

SD カードについて



ご注意

- 本機はすべての SD カードの動作を保証するものではありません。
- SD カードの出し入れを無理に行うと、本機や SD カードが破損するおそれがあります。ご注意ください。

- SD カードの挿入口には、SD カード以外のものを挿入しないでください。コインなどの金属物を挿入した場合、内部回路が破損し故障の原因となります。

- 本機と組み合わせて使用しているときに SD カードのデータが消失しても、消失したデータの保障についてはご容赦ください。

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、保管しないでください。

- 曲げたり、衝撃を与えたり、落下させたりしないでください。故障の原因になります。

- 濡れた手で触らないでください。故障の原因になります。

- 端子部を金属類や手で触らないでください。故障の原因になります。

- 誤ってお子様が飲み込むなどのことが無いように、取り出した SD カードは、お子様の手が届かないところに保管してください。

- SD カードは寿命があります。普通に使用していても正常に書き込みや消去などの動作をしなくなる場合があります。

- お持ちのパソコンで認識している SD カードが、まれに本機で認識しない場合があります。この場合、SD カードの不具合によっては、専用のフォーマットツールでフォーマットすることにより認識する場合があります。また、パソコンの標準機能でフォーマットをすると SD 非準拠のフォーマットになるため、データの書き込み、あるいは読み出しができないなどの不具合が発生することがありますので、専用フォーマットソフトでフォーマット作業を実行することが推奨されています。ただし、フォーマットした場合は、SD カードに記録されたデータがすべて消失します。フォーマットの際は、必ず SD カードデータのバックアップを作成してから行ってください。

SD カードのフォーマットソフトウェアは、SD アソシエーションの以下ホームページより入手できます。

<http://www.sdcard.org/jp/consumers/formatter/>

(2011 年 10 月時点転載)

- フォーマット作業による SD カードの不具合修復を弊社が保証するものではありません。また、本作業により、SD カードのデータ消失並びに、その他損害が発生した場合は、弊社として責任を負えません。

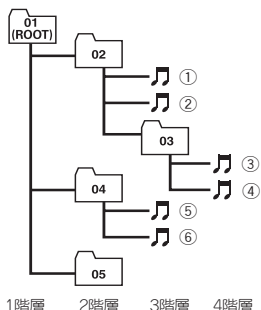
フォーマットソフトの説明書などをよくお読みになり、あくまで、お客様の判断・責任のもとでフォーマット作業は実行してください。

● 本機が対応する SD カード

- 本機は以下の SD カードに対応しています。
 - － SD カード*
 - － SDHC カード*
 - － mini SD カード*、micro SD カード（市販されている専用のアダプターが必要です）

USB 機器 / SD カード 内のフォルダーについて

- USB メモリー / SD カード内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合の構成は、プレーヤーによって異なります。



- 01 ~ 05 はフォルダー番号の割り当て、①~⑥は曲の再生順の例です。ユーザーが本機でフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- 圧縮オーディオファイルの再生の順序は、USB メモリー / SD カードにコピーされた順番と同じです。
- 再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。
 - パソコンで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
 - それらのファイルをフォルダーに入れる。
 - フォルダー単位で USB メモリー / SD カードにコピーする。ただしパソコンの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。
- 再生できるファイルの合計は、最大 15 000 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 1 500 フォルダーです。
- 8 階層までの WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの再生に対応しています。
- USB 機器 / SD カードのフォルダー階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。

- 画像データを含む圧縮オーディオファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- ファイルをエンコード / ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- m3u のプレイリストには対応していません。

iPod について

●本機が対応する iPod

- 本機は以下の iPod に対応しています。本機で確認済みのソフトウェアのバージョンは次のとおりです。これ以前のバージョンについては保証できません。
Made for
 - 第 4 世代 iPod touch : Ver. 4.1
 - 第 3 世代 iPod touch : Ver. 3.1.1
 - 第 2 世代 iPod touch : Ver. 2.1.1
 - 第 1 世代 iPod touch : Ver. 1.1
 - iPod classic 160GB : Ver. 2.0.2
 - iPod classic 120GB : Ver. 2.0
 - iPod classic : Ver. 1.0
 - 第 5 世代 iPod : Ver. 1.2.3
 - 第 6 世代 iPod nano : Ver. 1.0
 - 第 5 世代 iPod nano : Ver. 1.0.1
 - 第 4 世代 iPod nano : Ver. 1.0
 - 第 3 世代 iPod nano : Ver. 1.0
 - 第 2 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
 - 第 1 世代 iPod nano : Ver. 1.3.1
 - iPhone 4 : Ver. 4.1
 - iPhone 3GS : Ver. 3.0.0
 - iPhone 3G : Ver. 2.0
 - iPhone : Ver. 1.1.1
- 最新の情報についてはカロッツェリア ホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。
- 操作方法は、iPod の世代やソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。

- iPod を接続するには、iPod 用 USB 変換ケーブル（例：CD-IU51）が必要です。



ご注意

- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPod を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPod は必ず固定してください。iPod が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPod の取り扱いについて詳しくは、iPod の説明書をお読みください。
- 本機と組み合わせて使用しているときに iPod のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

● iPod の設定について

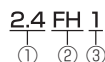
- 音質効果を最適にするために、iPod が接続されると、本機は iPod の EQ の設定を自動的に「オフ」にします。取り外すと、設定は自動的に元に戻ります。
- iPod を本機に接続してコントロールモードを AUDIO にした場合、iPod のリピートは「オフ」に設定できません。また、iPod のリピートが「オフ」に設定されていても、本機に接続すると、自動的に「すべて」に変更されます。

電波に関するご注意

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また本機は日本国内のみで使用できます。
- 下記の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
 - * 分解 / 改造すること。
 - * 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。
- 本機の無線機能は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数帯の電波はいろいろな機器（電子レンジ、無線 LAN 機器など）が使用していますので、電波の干渉により、本機の無

線機能の音声がとぎれたり聞き取りにくくなる場合があります。また、他の機器の動作や性能に影響を及ぼすことがあります。本機は電波干渉の影響を受けにくい方式ですが、下記の内容に注意してください。

- * 無線 LAN を利用した AV 機器・防犯機器などを使用している環境で、本機の無線機能を使うと、声かとぎれたり、無線 LAN 機器の動作に大きな影響を与えることがあります。
- その他、下記の機器でも、2.4 GHz の周波数帯の電波を使用しているものがあります。これらの機器の周辺では、音声がとぎれたり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作に影響を与えることがあります。
 - * 火災報知機・ワイヤレス AV 機器（テレビ、ビデオ、パソコンなど）
 - * 工場や倉庫などの物流管理システム・鉄道車両や緊急車両の識別システム
 - * マイクロ波治療器・ゲーム機のワイヤレスコントローラー
 - * 自動ドア・万引き防止システム（書店や CD ショップなど）
 - * 自動制御機器・その他、Bluetooth® 対応機器や VICS（道路交通網システム）
 - * アマチュア無線局など



- ① 「2.4」 GHz 帯を使用する無線設備を表します。
- ② 「FH」 変調方式を表します。
- ③ 「1」 想定される干渉距離（約 10 m）を表します。

本機から移動体識別用の特定小電力無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合はどうかお困りのことが起きたときは、パイオニアカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

故障かな？と思ったら

故障かな？ と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも 直らないときは

「保証書とアフターサービス」をお読みになり、修理を依頼してください。

●共通項目

症状	原因	処置
電源を OFF にしても画面表示が消えない。 意図せずに画面表示が切り換わる。 ボタンの色とディスプレイの表示を消せない。	フィーチャーデモが ON になっている。	フィーチャーデモを解除してください (➡「デモモードについて」14 ページ、「フィーチャーデモを ON/OFF する」79 ページ)。
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください。 車両のバッテリーのマイナス端子を外して、1 分後再接続してください。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものに交換してください。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を調節してください (➡「基本的なオーディオの操作」19 ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (➡「前後左右の音量バランスを調節する」58 ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (➡「前後左右の音量バランスを調節する」58 ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (➡「前後左右の音量バランスを調節する」58 ページ)。
ディスプレイの表示がおかしい。	背景画面が設定されている。	お好みの表示を選んでください (➡「背景画面を設定する」83 ページ)。
エンジンを切ったら警告音 (ブザー) が鳴る。	デタッチワーニングが ON になっている。	フロントパネルを取り外してください。フロントパネルを取り外さない場合は、デタッチワーニングを OFF にしてください (➡「フロントパネルの外し忘れを警告する」75 ページ)。
本機が誤動作する。 雑音が入る。	携帯電話などの電波発信機器を本機に近づけて使用している。	電波発信機器を本機から離してご使用ください。
画面のスクロールが停止する。	10℃以下の温度を検知すると、自動的に画面のスクロールが停止する。	温度が上がるまでお待ちください。
ムービーが停止し、シンプルディスプレイが表示される。	10℃以下の温度を検知すると、自動的にムービーが停止し、シンプルディスプレイが表示される。	温度が上がるまでお待ちください。

●ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください (⇒「ラジオのふだんの操作」22 ページ)。
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください (⇒「ラジオのふだんの操作」22 ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください (⇒「ラジオのふだんの操作」22 ページ)。
FM は受信するが、AM が受信できない。 受信感度が悪い。	アンテナコントロールが接続されていない。	アンテナコントロールを正しく接続してください (⇒「電源コードの接続」90 ページ)。
	自動車のアンテナが伸びていない。	アンテナを十分に伸ばしてください。

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAV

症状	原因	処置
CD 再生中、大きな雑音が出る。 CD の再生が途中で止まる。 CD が自動的に出てくる。	CD に大きなキズやそりがある。	CD を交換してください。 良くなれば、CD の不良です。
	CD が極端に汚れている。	CD の汚れをふき取ってください (⇒「CD の正しい使いかた」 105 ページ)。
	CD に曇りや汚れがついている。	CD の曇りや汚れをふき取ってください (⇒「CD の正しい使いかた」 105 ページ)。
	CD の裏表を逆にしてセットしている。	CD のレーベル面を上にしてセットしてください。

●AUX

症状	原因	処置
音が出ない。 音が小さい。	外部機器 (AUX) の音量を下けている。	外部機器 (AUX) の音量を調節してください。
	抵抗入り AUX ケーブルを使用して接続している。	抵抗なし AUX ケーブルを使用して接続してください。

●iPod

症状	原因	処置
音声が出ない。	Bluetooth 接続と USB 接続の両方で接続している場合、音声出力が自動で切り換わる場合があります。	iPod で操作して音声出力を切り換えてください。

こんなメッセージが表示されたら

正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAVのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「ERROR-07、11、12、17、30」	CDが汚れているとき。	CDの汚れをふき取ってください。
	CDにキズやひびがあるとき。	CDを交換してください。
「ERROR-15」	CD-R / CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R / CD-RWは、録音してからお使いください。
「ERROR-10、11、12、15、17、30、A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA / MP3 / AAC / WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権管理 (DRM) で保護されている。	CDを交換してください。
「SKIPPED」	デジタル著作権管理 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権管理 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。

●USBのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「CHECK USB」	USBコネクターまたはUSBケーブルがショートした。	USBコネクター / USBケーブルが何かにはさまっていないか、破損していないか確認してください。
	規定 (→「おもな仕様」118ページ) 以上の電流を消費するUSB機器を接続した。	接続したUSB機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにしてください。次に、対応するUSB機器を接続してください。
「NOT COMPATIBLE」	接続されたUSB機器が本機に対応していない。	USB Mass Storage Class 対応のUSB機器を接続してください。
「NO DEVICE」	USB機器が本機に接続されていない。	USB機器を本機に接続してください。
「NO AUDIO」	何も収録・保存されていないUSB機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルを収録・保存されたUSB機器を接続してください。
	セキュリティー機能付きのUSBメモリーを接続した。	USBメモリーの説明書に従って、セキュリティーを解除してから使用してください。
「PROTECT」	USB機器内のすべてのファイルがWindows Media DRM 9 / 10で保護されている。	Windows Media DRM 9 / 10で保護されていない圧縮オーディオファイルを収録・保存したUSB機器を接続してください。
「SKIPPED」	Windows Media DRM 9 / 10で保護されたWMAファイルを再生した。	Windows Media DRM 9 / 10で保護されていない圧縮オーディオファイルを再生してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。	以下のいずれかの処置を行ったあと、ソースをUSBに切り換えてください。車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONする。 / 接続したUSB機器を一度外してから接続する。 / 別のソースに切り換える。

メッセージ	原因	処置
「ERROR-23」	接続された USB 機器のフォーマットが、FAT32 /FAT16/FAT12 ではない。	フォーマットが、FAT32、FAT16、または FAT12 の USB 機器を接続してください。
「CHECKING ♪ TAGS」	Music ブラウズのためのデータベース、またはリストを構築している。	データベース、またはリスト構築が完了するまでお待ちください。

●SD カードのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「ERROR-23」	挿入された SD カードのフォーマットが、FAT32 /FAT16/FAT12 ではない。	フォーマットが、FAT32、FAT16、または FAT12 の SD カードを挿入してください。

●iPod のエラー表示

メッセージ	原因	処置
「CHECK USB」	iPod は動作するが、充電されない。	iPod ケーブルがショートしていないか（たとえば、金属物にはさまれていないか）確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、iPod を一度脱着してください。
「NOT COMPATIBLE」	接続された iPod が本機に対応していない。	本機に対応した iPod を使用してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。 iPod に問題が発生した。	コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「ERROR-16」	iPod ソフトウェアのバージョンが古い。 iPod に問題が発生した。	iPod ソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。 コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「STOP」	選んだプレイリストに曲が入っていない。 iPod に曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。 iPod に曲を転送してください。

●Bluetooth のエラー表示

メッセージ	原因	処置
「ERROR-10」	本機の Bluetooth モジュールに通信できない。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にしてください。それでも正常に動作しない場合は、お近くの販売店にご相談ください。
「NO SERVICE」	Bluetooth 機器が本機に接続されていない。	Bluetooth 機器を本機に接続してください。

●保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのおうえ、大切に保管してください。

●保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

●保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

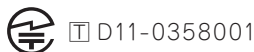
●補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●ご質問、ご相談は

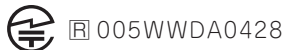
本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

- 本製品は、電気通信事業法に基づく設計認証を取得しています。



- 本機内蔵の通信モジュールは、電波法に基づく設計認証を取得した特定無線設備（FC6000S）を使用しています。

FC6000S



●WMA

Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずには使用または頒布できません。

●MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ

<http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- ・営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

●iTunes

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

● iPod & iPhone

Made for



iPod, iPod classic, iPod nano, および iPod touch は米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod あるいは iPhone 専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。このアクセサリを iPod あるいは iPhone と使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

● SD

SDHC ロゴは SD-3C, LLC の商標です。



● Bluetooth

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。



おもな仕様

●共通部

使用電源：	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：	マイナスアース方式
最大消費電流：	10.0 A
外形寸法	(取付寸法) : 178 (W) mm × 50 (H) mm × 165 (D) mm (ノーズ寸法) : 170 (W) mm × 46 (H) mm × 17 (D) mm
質量：	1.2 kg (コード含まず)

●アンプ / オーディオ部

最大出力：	50 W × 4
定格出力：	22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD, 4 Ω load, Both Channels Driven)
負荷インピーダンス：	4 Ω (4 Ω ~ 8 Ω 使用可能)
プリアウト最大出力レベル：	5 V
出カインピーダンス：	100 Ω
ラウドネスコンター：	10 dB (100 Hz) 6.5 dB (10 kHz) (ボリューム : - 30 dB)

イコライザー (左右独立 16 バンドグラフィックイコライザー)

周波数：	20 Hz / 31.5 Hz / 50 Hz / 80 Hz / 125 Hz / 200 Hz / 315 Hz / 500 Hz / 800 Hz / 1.25 kHz / 2 kHz / 3.15 kHz / 5 kHz / 8 kHz / 12.5 kHz / 20 kHz
調整幅：	± 12 dB (2 dB step)

オートイコライザー (F & R & SW) / (High & Mid & Low)

周波数：	20 Hz / 31.5 Hz / 50 Hz / 80 Hz / 125 Hz / 200 Hz / 315 Hz / 500 Hz / 800 Hz / 1.25 kHz / 2 kHz / 3.15 kHz / 5 kHz / 8 kHz / 12.5 kHz / 20 kHz
調整幅：	- 12 dB ~ + 6 dB (2 dB step)

ネットワーク (左右独立)

(スタンダードモード) :

HFP (Front / Rear)

周波数：	50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz
スロープ：	- 12 dB, - 6 dB, 0 dB (Pass) / oct
調整幅 (Front HPF)：	- 24 dB ~ 0 dB / Mute (1 dB step)
調整幅 (Rear HPF)：	- 24 dB ~ + 6 dB / Mute (1 dB step)

Subwoofer

周波数：	50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz
スロープ：	- 18 dB, - 12 dB, - 6 dB / oct
調整幅：	- 24 dB ~ + 6 dB / Mute (1 dB step)
位相：	Normal / Reverse

(3 ウェイネットワークモード) :

High (HPF)

周波数：	1.25 kHz / 1.6 kHz / 2 kHz / 2.5 kHz / 3.15 kHz / 4 kHz / 5 kHz / 6.3 kHz / 8 kHz / 10 kHz / 12.5 kHz
スロープ：	- 24 dB, - 18 dB, - 12 dB, - 6 dB / oct
調整幅：	- 24 dB ~ 0 dB / Mute (1 dB step)
位相：	Normal / Reverse

Mid (HPF / LPF)

周波数 (LPF) : 1.25 kHz / 1.6 kHz / 2 kHz / 2.5 kHz / 3.15 kHz / 4 kHz / 5 kHz / 6.3 kHz / 8 kHz / 10 kHz / 12.5 kHz

周波数 (HPF) : 25 Hz / 31.5 Hz / 40 Hz / 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz / 250 Hz

スロープ (LPF) : -24 dB, -18 dB, -12 dB, -6 dB, 0 dB (Pass) / oct

スロープ (HPF) : -24 dB, -18 dB, -12 dB, -6 dB, 0 dB (Pass) / oct

調整幅 : -24 dB ~ 0 dB / Mute (1 dB step)

位相 : Normal / Reverse

Low (LPF)

周波数 : 25 Hz / 31.5 Hz / 40 Hz / 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz / 250 Hz

スロープ : -36 dB, -30 dB, -24 dB, -18 dB, -12 dB / oct

調整幅 : -24 dB ~ +6 dB / Mute (1 dB step)

位相 : Normal / Reverse

●CD プレーヤー部

形式 : コンパクトディスクオーディオシステム

使用ディスク : コンパクトディスク

信号フォーマット

サンプリング周波数 : 44.1 kHz

量子化ビット数 : 16 ビット直線

周波数特性 : 5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)

S/N 比 : 105 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)

ダイナミックレンジ : 100 dB (1 kHz)

チャンネル数 : 2 (ステレオ)

MP3 デコーディングフォーマット : MPEG-1 & MPEG-2 AUDIO LAYER-3

WMA デコーディングフォーマット : Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11, 12 (2 ch audio)
(Windows Media Player)

AAC デコーディングフォーマット : MPEG-4 AAC (Ver. 10.4 以前の iTunes でエンコードされた楽曲)

WAV シグナルフォーマット : Linear-PCM, MS ADPCM

●USB 部

USB 規格 : USB 2.0 Full Speed

最大供給電流 : 1 A

USB クラス : マスストレージクラス

ファイルシステム : FAT12, FAT16, FAT32

MP3 デコーディングフォーマット : MPEG-1 & MPEG-2 AUDIO LAYER-3

WMA デコーディングフォーマット : Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11, 12 (2 ch audio)
(Windows Media Player)

AAC デコーディングフォーマット : MPEG-4 AAC (Ver. 10.4 以前の iTunes でエンコードされた楽曲)

WAV シグナルフォーマット : Linear-PCM, MS ADPCM

●SD 部

フォーマット : Ver.2.00

最大メモリ容量 : 32 GB

ファイルシステム : FAT12, FAT16, FAT32

MP3 デコーディングフォーマット : MPEG-1 & MPEG-2 AUDIO LAYER-3

WMA デコーディングフォーマット : Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11, 12 (2 ch audio)
(Windows Media Player)

AAC デコーディングフォーマット : MPEG-4 AAC (Ver. 10.4 以前の iTunes でエンコードされた楽曲)

WAV シグナルフォーマット : Linear-PCM, MS ADPCM

次のページに続く

●FM チューナー部

受信周波数帯域：	76.0 MHz～90.0 MHz
実用感度：	9 dBf (0.8 μ V/75 Ω 、モノラル、S/N：30 dB)
S/N：	72 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：	0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ) 0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性：	30 Hz～15 000 Hz (\pm 3 dB)
ステレオセパレーション：	45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

●AM チューナー部

受信周波数帯域：	522 kHz～1 629 kHz
実用感度：	25 μ V (S/N：20 dB)
S/N：	62 dB (IHF-A ネットワーク)

●Bluetooth 部

Bluetooth バージョン：	Bluetooth 3.0 certified
出力：	最大 +4 dBm (Power class 2)



●付属品

コードユニット：	1 式
USB 接続ケーブル：	2
スピーカー／RCA 変換ケーブル：	1
音響特性測定用マイク：	1
ハンズフリー用マイク：	1 式
取付ネジ類：	1 式
取扱説明書：	1
リモコン：	1
リチウム電池 (CR2025)：	1
フェイスパネルケース：	1
安全上のご注意：	1
保証書：	1
サービス窓口のご案内：	1

メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーコールは、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。

また、【一般電話】は、携帯電話・PHS・IP電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。

ご相談窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■ カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話  **0120-944-111** 【一般電話】 **044-572-8101**

ファックス **044-572-8103**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかをご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付窓口（沖縄県を除く全国）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話  **0120-5-81028** 【一般電話】 **044-572-8100**

ファックス  **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair/>

※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受付けております

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 【一般電話】 **098-987-1120**

ファックス **098-987-1121**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話  **0120-5-81095** 【一般電話】 **044-572-8107**

ファックス  **0120-5-81096**

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.045

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2011

<KFWZX> <11K00000> <CRA4519-A/N>